

『徳山語録』研究ノート

関 守 研 悟

はじめに

徳山宣鑑（七八〇～八六五）は、青原下の禪僧であり、修行者を指導する際に棒打を多用した。その禪風は一喝を用いた臨済義玄（？～八六六）と並び称されて、「徳山の棒、臨済の喝」と評されており、「呵仏罵祖」の大機大用を振るったことで広く知られている。

ところが、臨済の研究が従来、数多く行われているのに対し、徳山の研究はあまりなされていない。その最大の理由は、臨済の法系が後世繁栄し、その流れが日本にも伝わって今日まで命脈を保ち続けているのに対し、徳山の法系は雲門・法眼の二宗を生み出したものの、宋代以降、両宗が衰退滅亡の道を歩んだことにあるろう。だが、今一つ大きな理由として、臨済の語録である『臨済録』が「語録の王」と称され、今日に至るまで広く読まれているのに対し、徳山にはまとまった『語録』が伝わっておらず、その全体像を容易に知ることができなかつたことが挙げられよう。

しかし、現存はしないものの、徳山の『語録』が過去に存在していたことを示す記述がある。『祖堂集』巻五・徳山章に、徳山の生縁・問答・法語が載せられた後、示滅の記事の前に、「更に枢要有り、備に広誨つひかに陳ぶの（更有樞要、備陳廣誨）」（禪文化研究所・基本典籍叢刊・大韓民国海印寺版・p.216）という文章がある。『広誨』は辞書類に見えない熟語であるが、ここでは「広録」などと同様、教示を集めた書物であったと考えられ、当時、徳山の語録があつたことを窺わせる。『祖庭事苑』巻五「窮諸玄辯」の項に、「徳山広録云……」（Z113-147a）という記載があり、『徳山広録』という書物が存在したことが明言されている。

また、宋の覚範慧洪（一〇七一一―一二二八）の『林間録』巻上に、「今、徳山の四家録に載する所、具つぎに存す（今徳山四家録所載具存）」（Z148-607a）と、『徳山四家録』の名を伝えている。この本は現存しておらず、その内容は不明であるが、「四家」が徳山以下の四代を指すとすれば、『徳山四家録』には、徳山およびその法嗣の雪峰義存（八二二―九〇八）と巖頭全藏（八二八―八八七）、雪峰に嗣ぐ玄沙師備（八三五―九〇八）の四人の語録、つまり『朗州徳山見性禪師語録』、『福州雪峰真覺禪師語録』、『鄂州巖頭清儼禪師語録』、『福州玄沙宗一禪師広録』の四語録が収められていたと推測される。この内、『雪峰真覺禪師語録』（Z119所収）と『玄沙宗一禪師広録』（Z126所収）の二つは現存している。

このように見てくると、『徳山広録』は『徳山四家録』を構成している書物であり、徳山の『広誨』そのものか、『広誨』を再編したものと考えられる。

更に、宋の鄭樵（一一〇四―一一六二）撰『通志』巻六七「芸文略・釈家・語録」の条には、「徳山和尚語録一卷」という記述がある。この「語録」は『広録』と同じものであつた可能性もあるし、別に再編された『語録』が存在したのかもしれないが、何れにしろ徳山に何らかのまとまった『語録』の類が、南宋の始めまでは現存していたことが知られる。

しかし、徳山の『広録』にしろ『語録』にしろ、何れも残されていない現状においては、徳山に関する資料を載せた『碧巖録』『無門関』『従容庵録』などの公案集や、他の禅僧の語録、さまざまな燈史類から、該当部分を収集整理することによって、その内容を復元するしかない。しかも、時代の推移にもなつて記述内容に付加や削除、もしくは改変が加えられた可能性もある。よつて、ただ無批判に資料を羅列すれば良いというものではない。

今回は、そのような可能性も踏まえ、徳山の資料を相互に比較できる形で整理し、徳山研究の足がかりとすることにした。

* * *

徳山の資料は、非常に多くの典籍に見出すことが出来る。ただ、全部を並記すると冗長にわたるし、重複する内容も多いため、今回は比較的、徳山の伝記を詳細に記載する、『祖堂集』・『宋高僧伝』・『景德伝燈録』・『宗門聯燈会要』・『五燈会元』の五点を基本資料と定めた。その理由は以下の通りである。

①『祖堂集』（九五二年成立）≡徳山宣鑑―雪峰義存―福先文燈（浄修禅師：生卒年不詳）に嗣ぐ泉州招慶院の静・筠二禅徳が編纂したものであり、最古の禅宗史伝の一つであること。

②『宋高僧伝』（九八八年成立）≡北宋の贊寧（九一九―一〇〇二）による高僧の伝記であり、他の禅籍が、編纂に際して禅門内における宗派的偏向が見られるのに対し、あくまで客観的に伝記を記載している点で特殊な資料であること。

③『景德伝燈録』（一〇〇四年成立）≡撰者である永安道原（生卒年不詳）が、徳山宣鑑―雪峰義存―玄沙師備―羅漢桂琛（八六七―九二八）―法眼文益（八八五―九五八）―天台徳韶（八九一―九七二）―永安道原

と師承し、また、数ある燈史中、最も基本的な書物であるとされ、後の時代に大きな影響を与えたものであること。

④『宗門聯燈会要』（一一八三年成立、晦翁悟明〔生卒年不詳〕編）Ⅱ徳山の「示衆」部分が収められている貴重な資料であること。

⑤『五燈会元』（一二五二年成立、大川普済〔一一七九―一二五三〕撰。一説では慧明首座〔生卒年不詳〕撰）Ⅱ最も総合的な燈史であり、各禅僧の記録には洗練と潤色のあとが顕著であるが、後代における発展系としての禅僧像の完成した形と捉えられること。

奇しくも、『祖堂集』・『景德伝燈録』の二点は徳山門流の禅者の編纂であり、徳山の一門が決して禅門における傍流ではなかったことを物語っている。

さらに本論では、以上の基本資料に加え、『宗鏡録』・『雪竇明覚禅師語録』・『建中靖国統燈録』・『鎮州臨濟慧照禅師語録』・『宗門統要集』・『正法眼蔵』・『天聖広燈録』・『祖庭事苑』・『五家正宗贊』・『雪峰真覚禅師語録』・『筠州洞山悟本禅師語録』・『瑞州洞山良价禅師語録』・『潭州滄山靈祐禅師語録』の二三点を副次的資料として使用した。

* * *

今回行なった徳山の資料収集と、その分類作業によって、時代を経るにつれて徳山の像が変化していることが確認できた。特に、Ⅰ《行録》の「八、龍潭吹滅の話」、Ⅱ「九、龍潭の賞讃」、Ⅲ「一〇、悟道の偈・疏鈔を焼く」、Ⅳ《勘弁》の「二、滄山に抵る」に見える一連の話は、『碧巖録』や『無門関』にも収録され、後代に広く知られるものだが、時代が下がるにつれて、それらの形が発展変化していることには留意すべきであ

ろう。

収集した資料の中には、後に法孫が徳山を持ち上げるために創作して書き加えた部分が混じっていることは、容易に推測される。しかし、後代に付記されたと思われる資料を、単なる虚偽と決めつけて無差別に排除してしまうことには危険がある。さかのぼって考えてみるならば、我々は権威ある燈史として『祖堂集』や『景德伝燈録』を用いるが、それらが単に史実を伝えたものでないことも、また良く知っているからである。

元来、燈史は宗教的要請に基づいて編纂されたものであり、尊敬すべき祖師像に何らかの潤色がほどこされるのはやむを得ないことであるし、突き詰めて考えるならば、そのような文献から真実のみを取り出すことは、もともと不可能といつても過言ではなからう。とはいえ、その潤色をも含めて、一人の禅僧がどのように描かれているか、原初形態を知ることができるであろう。これまでのように、『碧巖録』・『無門関』の注釈書や書き入れ本の記述をそのまま鵜呑みにするのではなく、厳密な資料批判を通して、徳山という一人の禅僧の伝を真摯に見つめ直したい。この研究ノートで徳山の資料を整理した意図もそこにある。

* * *

尚、徳山に関する従来の研究として次の様なものがある。参考されたい。

○忽滑谷快天『禅学思想史』上 (p.572-578)

○鈴木大拙「金剛経の禅」(『鈴木大拙全集』第五卷、所収)

○柳田聖山『続・純禅の時代』(『禅文化研究所・一九八五』)

○柳田聖山「語録の歴史」(『禪文献の研究』上)

○入矢義高『自己と超越』(岩波書店・一九八六)

○西口芳男「徳山の示衆」(『禪文化研究所紀要』一四号)

【凡例】

○徳山の伝記に使用した資料の典拠と略号は次の通り。

*基本資料

『祖堂集』巻五……………禅文化研究所『基本典籍叢刊』本(212~217)・略号【祖】

『宋高僧伝』巻一二……………『大正新脩大蔵経』第五〇冊(778b~c)・略号【宋】

『景德伝燈録』巻一〇……………『大正新脩大蔵経』第五一冊(317b~318a)・略号【景】

『宗門聯燈会要』巻二一……………『大日本統蔵経(卍統蔵経)』第一三六冊(755b~761a)・略号【聯】

『五燈会元』巻七……………『大日本統蔵経(卍統蔵経)』第一三八冊(229b~231b)・略号【五】

*副次的資料

『宗鏡録』……………『大正新脩大蔵経』第四八冊・略号【宗】

『雪竇明覚禪師語録』……………『大正新脩大蔵経』第四七冊・略号【雪】

『建中靖国統燈録』巻一……………『大日本統蔵経(卍統蔵経)』第一三六(48b)・略号【統】

『鎮州臨濟慧照禪師語録』……………『大正新脩大蔵経』第四七冊・略号【臨】

『宗門統要集』……………柳田聖山・椎名宏雄共編『禅学典籍叢刊』第一巻・略号【統】

『正法眼蔵』……………『大日本統蔵経(卍統蔵経)』第一一八冊・略号【正】

『天聖広燈録』……………『大日本統藏經（正統藏經）』第一三五冊・略号【広】
 『祖庭事苑』……………『大日本統藏經（正統藏經）』第一一三冊・略号【事】
 『五家正宗贊』卷一……………『大日本統藏經（正統藏經）』第一三五冊（916b～918b）・略号【贊】
 『雪峰真覺禪師語録』……………『大日本統藏經（正統藏經）』第一一九冊・略号【峰】
 『筠州洞山悟本禪師語録』・『瑞州洞山良价禪師語録』……………『大正新脩大藏經』第四七冊・略号【洞】
 『潭州瀉山靈祐禪師語録』……………『大正新脩大藏經』第四七冊・略号【瀉】

なお、副次的資料の典拠は本文中に適宜挙げる。また、本文中のこれらの資料の順序は、基本的には刊行年順とするが、【祖】のみは資料的な価値を優先して成立年を取る。

○原文の漢字は極力正字を用いたが、ワープロソフトの限界があり、不徹底な部分もある。また、底本に使用されている字体と異なる場合がある。

○資料を整理するに当たって、便宜的にⅠ《行録》一七段（この章は徳山の行脚・修行といった経歴の記録であり、いわゆる「伝記」にあたる）、Ⅱ《上堂》三段（この章は徳山が法堂に上り、説法した話を収める。「景德伝燈録」に「上堂」と記載のある一段を纏めた）、Ⅲ《示衆》二五段（この章は《上堂》に収めた話以外の、第二義門に下った徳山の言詮による説法である）、Ⅳ《勘弁》二九段（この章は徳山と他の禪者・修行者との機縁を収めたものである）の合計七四の項目に分け、その内容に従って資料を振り分けた。

I 《行 録》

(一) 法系・諱・俗姓・本貫

- 【祖】 德山和尚嗣龍潭在朗州。師諱宣鑒。姓周。劔南西川人也。
- 【宋】 唐朗州德山宣鑒傳。釋宣鑒。姓周氏。劔南人也。
- 【景】 前澧州龍潭崇信禪師法嗣。朗州德山宣鑒禪師。劔南人也。姓周氏。
- 【聯】 青原下第五世。澧州龍潭崇信禪師法嗣。鼎州德山宣鑑禪師。劔南周氏子。師在蜀。
- 【五】 青原下四世。龍潭信禪師法嗣。鼎州德山宣鑒禪師。簡州周氏子。
- 【贊】 德山見性禪師。師諱宣鑒嗣龍潭簡州人姓周氏。(Z135-917a)

(二) 性 格・力 量

- 【祖】 生不熏食幼而敏焉。
- 【宋】 生惡葷糲、少多英敏。宿齋異操、懇願出塵。大龍不屈於小庭、俊鶻必騰其層漢。既除美飾、當預僧流。
- 【景】 ナシ
- 【聯】 ナシ
- 【五】 ナシ

(三) 出家

【祖】 卅歲從師、依年受具。

【宋】 ナシ

【景】 卅歲出家、依年受具。

【聯】 ナシ

【五】 卅歲出家、依年受具。

(四) 學問

【祖】 毘尼勝藏靡不精研。解脫相宗、獨探其妙。

【宋】 從受近圓、卽窮律藏。其諸性相、貫習偕通。

【景】 精究律藏、於性相諸經、貫通旨趣、常講金剛般若、時謂之周金剛。

【聯】 業金剛經、因號周金剛。

【五】 精究律藏、於性相諸經、貫通旨趣、常講金剛般若、時謂之周金剛。

【贊】 初講金剛經、名冠成都。時稱周金剛。(Z135-917a)

(五) 唯だ我れのみぞ知る

【祖】 毎日、一毛吞巨海、海性無虧。纖芥投針鋒、鋒利不動。然學與非學、唯我知焉。

【宋】 ナシ

【景】因謂同學曰、一毛吞海、海性無虧。纖芥投鋒、鋒利不動。學與無學、唯我知焉。

【聯】嘗謂同學云、一毛吞海、海性無虧。纖芥投鋒、鋒利不動。學與無學、唯我知焉。

【五】嘗謂同學云、一毛吞海、海性無虧。纖芥投鋒、鋒利不動。學與無學、唯我知焉。

【贊】嘗謂同學云、一毛吞海、海性無虧。纖芥投鋒、鋒利不動。學與無學、唯我知焉。(Z135-917a)

(六) 禪に赴く機縁

【祖】遂雲遊海内、訪謁宗師。凡至擊揚、皆非郢哲。

【宋】聞重湖問禪道大興。

【景】厥後訪尋禪宗。

【聯】後聞南方禪席頗盛、師氣不平。謂同列曰、出家兒千劫學佛威儀、萬劫學佛細行、尚不得成佛。南方魔

子敢言、直指人心、見性成佛。我當樓其窟穴、滅其種族、以報佛恩。遂擔青龍疏抄出蜀。

【五】後聞南方禪席頗盛、師氣不平。乃曰、出家兒千劫學佛威儀、萬劫學佛細行、不得成佛。南方魔子敢言、

直指人心、見性成佛。我當樓其窟穴、滅其種類、以報佛恩。遂擔青龍疏抄出蜀。

【贊】聞南方禪席頗盛、師氣不平。乃曰、出家兒千劫學佛細行、萬劫學佛威儀、不得成佛。南方魔子敢言、直指人心、見性成佛。當破其窟宅、滅其種類、以報佛恩。遂負青龍鈔出蜀、至灋陽。(Z135-917a)

(七) 婆子点心

【祖】ナシ

【宋】ナシ

【景】 ナシ

【聯】 及中路、遇一賣餅婆子。師放下疏抄、問婆云、買餅點心。婆斂手云、上座擔者、何文字。師云、青龍疏抄。婆云、講何經。師云、金剛經。婆云、婆有一問。上座若道得、即捨餅充點心。師云、便請。婆云、經中道、過去心不可得、見在心不可得、未來心不可得。上座鼎鼎、是點那箇心。師無對。

【五】 至澧陽路上、見一婆子賣餅、因息肩買餅點心。婆指擔曰、這箇是甚麼文字。師曰、青龍疏鈔。婆曰、講何經。曰、金剛經。婆曰、我有一問、你若答得、施與點心。若答不得、且別處去。金剛經道、過去心不可得、現在心不可得、未來心不可得。未審上座點那箇心。師無語。

【贊】 路上見一婆子賣餅因息肩買點心。婆指擔曰、者是什麼文字。曰、青龍疏鈔。曰、講何經。曰、金剛經。曰、我有一問。若答得即與點心、答不得且別處去。經中道、過去心不可得、現在心不可得、未來心不可得。未審上座點那箇心。師無語。(Z135-917a)

(八) 龍潭吹滅の話

【祖】 後聞龍潭則石頭之二葉、乃攝衣而往焉。初見而獨室小駐門徒。師乃看侍數日、因一夜參次、龍潭云、何不歸去。師對曰、黑。龍潭便點燭與師。師擬接、龍潭便息却。師便禮拜。潭云、見什麼道理。師云、從今向去、終不疑天下老師舌頭。師便問、久嚮龍潭、及至到來、潭又不見、龍又不見時如何。潭云、子親到龍潭也。

【宋】 乃杭志雲遊、造龍潭信禪師。則石頭宗師之二葉也。始唯獨居一室、鑿強供侍之。一夕龍潭、持一枝火授鑿。鑿接而行。數步且曰、久聞龍潭、到來龍之與潭俱不見歟。信曰、子親到矣。機與教符。

【景】 因造龍潭信禪師。問答皆一語而已。「前章出之。」師即時辭去。龍潭留之。一夕於室外默坐。龍問、

何不歸來。師對曰、黑。龍乃點燭與師。師擬接。龍便吹滅。師乃禮拜。龍曰、見什麼。曰、從今去向、不疑天下老和尚舌頭也。

【統】侍立龍潭。夜深下去。既黑。龍潭點紙燭與師。師纔接。潭即吹滅。師忽大悟。作禮。龍潭曰、子見什麼道理。師曰、從今日已去、不疑天下老和尚舌頭。(卷一·2136-48b)

【統】師因侍龍潭。抵夜、潭云、夜深、子何不下去。師遂珍重、揭簾而出見外面黑。却迴云、外面黑。潭乃點燭度與師、擬接潭、便吹滅。師於此忽省、便作禮。潭云、子見箇什麼道理。師云、某甲從今日去、不疑天下老和尚舌頭也。(卷七·典籍叢刊 p.162a)

【正】德山和尚、長講金剛經爲業。後聞南方禪宗大興、罔措其由。遂罷講散徒、攜疏鈔南遊。先到龍潭、纔跨門、便問、久嚮龍潭、及乎到來。潭又不見、龍又不現。潭曰、子親到龍潭。山乃禮拜而退。至夜入室侍立更深。潭曰、子何不下去。山遂珍重揭簾而出、見外面黑。却回云、外面黑。潭乃點紙燭度與。

山方接次、潭便吹滅。山於此忽然大悟、便禮拜。潭曰、子見箇甚麼便禮拜。山云、某甲自今已後、更不疑著天下老和尚舌頭。(卷五·2118-114a)

【聯】徑造龍潭、纔相見。便問、久嚮龍潭、及乎到來。潭又不見、龍又不現。潭云、子親到龍潭。師作禮而退。(雪竇云、將錯就錯。雲峯悅云、大小德山、向蓋淹殺。黃龍心云、雪竇與麼、不知德山將錯就錯。龍潭將錯就錯、識休咎底衲僧。必知去處、未過關者。亦宜辨白、還相委麼。縱饒栽種得、不是棟梁材。)師因待立龍潭。抵夜、潭云、夜深、子何不下去。師即珍重。揭簾而出、見外面黑。却回云、外面黑。潭點紙燭度與師。師擬接、潭便吹滅。師於此大悟、便作禮。潭云、子見箇甚麼道理。師云、某甲從今日去、不疑天下老和尚舌頭。

【五】遂往龍潭。至法堂曰、久嚮龍潭、及乎到來、潭又不見、龍又不現。潭引身曰、子親到龍潭。師無語。

遂棲止焉。一夕侍立次、潭曰、更深何不下去。師珍重便出。却回曰、外面黑。潭點紙燭度與師。師擬接、潭復吹滅。師於此大悟。便禮拜。潭曰、子見箇甚麼。師曰、從今向去、更不疑天下老和尚舌頭也。

【贊】徑往龍潭曰、久嚮龍潭、及乎到來、潭又不見、龍又不現。潭曰、子親到龍潭。師無對。遂止息焉。一夕侍立次、潭曰、更深何不下去。珍重便出。却回曰、外面黑。潭點紙燭度與。師接得、潭便吹滅。師大悟、便禮拜。潭曰、子見箇什麼。師曰、從今向去、更不疑天下老和尚舌頭。(Z135-917a)

(九) 龍潭の賞讚

【祖】 ナシ

【宋】 ナシ

【景】至明日、便發。龍潭謂諸徒曰、可中有一箇漢、眼如利劍、口似血盆、一棒打不回頭、他時、向孤峯頂上、立吾道在。

【統】龍潭次辰示衆曰、可中有箇漢、牙如劍劍、眼似流星、口若血盆、面生黑漆、一棒打不回頭、他時後日、向孤峰頂上、盤結草庵、呵佛罵祖去在。(卷一・Z136-48b)

【統】至明日龍潭升堂云、可中有箇漢、牙如劍樹、口似血盆、一棒打不迴頭、他時、向孤峯頂上、立吾道在。(卷七・典籍叢刊 p.162a)

【正】至來日龍潭上堂云、可中有箇漢、牙如劍樹、口似血盆。一棒打不回頭、佗時後日、向孤峯頂上、立吾道去在。(卷五・Z118-114a)

【聯】次日龍潭升堂云、可中有箇漢、牙如劍樹、口似血盆、一棒打不回頭、他時異日、向孤峯頂上、立吾道去在。

【五】 至來日、龍潭陞座、謂衆曰、可中有箇漢、牙如劍樹、口似血盆、一棒打不回頭、他時向孤峯頂上、立吾道去在。

【贊】 至來日潭陞座、謂衆曰、可中有箇漢、牙如劍樹、口似血盆、一棒打不回頭、他日向孤峯頂上、立吾道去在。(Z135-917a)

(110) 悟道の偈・疏鈔を焼く

【祖】 師聞不糲之言、喜而歎曰、窮諸玄辯、如一毫置之太虛、竭世樞機、似一滴投於巨壑。

【宋】 ナシ

【景】 ナシ

【統】 師即焚却文字、便行。(卷1・Z136-18b)

【統】 師遂取疏鈔、於法堂前、將一炬火提起云、窮諸玄辯、若一毫致於太虛、竭世樞機、似一滴投於巨壑。將疏鈔便燒。於是取禮辭。(卷七・典籍叢刊 p.162a~b)

【正】 山遂取疏鈔、於法堂前、將一炬火、提起云、窮諸玄辯、若一毫置於太虛、竭世樞機、似一滴投於巨壑。將疏鈔便燒。於是禮辭。(卷五・Z118-114a)

【聯】 師取疏抄、於法堂前、將一炬火、提起云、窮諸玄辯、若一毫置於太虛、竭世樞機、似一滴投於巨壑。將疏抄便燒。於是取辭。

【五】 師將疏鈔、堆法堂前、舉火炬曰、窮諸玄辯、若一毫置於太虛、竭世樞機、似一滴投於巨壑。遂焚之。於是禮辭。

【贊】 師遂將疏鈔、堆法堂前、舉火云、窮諸玄辯、若一毫置於太虛、竭世樞機、似一滴投於巨壑。遂焚之。

(一一) 悟 後

【祖】 遂乃攝金牙之勇、敵藏敬德之雄征、繼立雪之玄徒、俟傳衣之祕旨。給侍瓶屨、日扣精微。

【宋】 ナシ

【景】 ナシ

【聯】 ナシ

【五】 ナシ

(一二) 澧源に留まる

【祖】 更不他遊、盤泊澧源三十餘載乎。

【宋】 日親丈室三十餘年。後止澧陽居。

【景】 師住澧陽三十年。

【聯】 ナシ

【五】 師住澧陽三十年。

(一三) 廢仏後、徳山に請ぜらる

【祖】 澄汰後、咸通初年、武陵太守薛延望、迎請始居徳山。

【宋】 無何屬武宗搜揚。洎大中還復法儀。咸通初、武陵太守薛延望、堅請始居徳山。

【景】屬唐武宗廢教、避難於獨浮山之石室。大中初、武陵太守薛廷望再崇德山精舍、號古德禪院。〔相國裴休題額見存。〕將訪求哲匠住持、聆師道行。屢請不下山。廷望乃設詭計。遣吏以茶鹽誣之、言犯禁法。取師入州、瞻禮堅請居之。大闡宗風。〔總印禪師開山創院。鑒即第二世住也。〕

【聯】 ナシ

【五】屬唐武宗廢教、避難於獨浮山之石室。大中初、武陵太守薛廷望、再崇德山精舍、號古德禪院。將訪求哲匠住持、聆師道行、屢請不下山。廷望乃設詭計、遣吏以茶鹽誣之、言犯禁法。取師入州、瞻禮堅請居之、大闡宗風。

(一四) 德山における教化

【祖】自是四海玄徒、冬夏常盈五百矣。

【宋】其道芬馨、四海禪徒輻湊。伏臘堂中、常有半千人矣。其於訓授、天險海深、難窺邊際。

【景】 ナシ

【統】後住德山、傳正法眼。(卷一・2136-48b)

【聯】 ナシ

【五】 ナシ

(一五) 遺 誠・遷 化

【祖】咸通六年乙酉歲十二月三日、忽告諸徒、捫空追嚮、勞你神耶。夢覺覺非覺、有何事。言訖宴坐安詳、奄然順化。春秋八十四、僧夏六十五。敕諡見性大師。

【宋】以咸通六年乙酉歲十二月三日、忽告諸徒曰、捫空追響勞汝神邪。夢覺覺非、復有何事。言訖安坐而化。春秋八十四、僧臘六十五。身據床坐、卓然七日如生在焉。

【景】師復告諸徒曰、捫空追響、勞汝心神。夢覺覺非、竟有何事。言訖、安坐而化。即唐咸通六年乙酉、十二月三日也。壽八十六、臘六十五。敕謚見性大師。

【聯】師臨示寂時、示衆云、捫空追響、勞汝精神。夢覺覺非、復有何事。言訖端然而寂。時咸通六年乙酉、十二月三日也。壽八十六、臘六十五。

【五】師復告衆曰、捫空追響、勞汝心神。夢覺覺非、竟有何事。言訖、安坐而化。即唐咸通六年、十二月三日也。謚見性禪師。

(一六) 碑文·讚·門風

【祖】沙門元會、撰碑文。淨修禪師讚曰、德山朗州、剛骨無儔。尚祛祖佛、豈立證修。釋天杲日、苦海慈舟。誰攀真躅、雪峯巖頭。

【宋】天下言激箭之禪道者、有德山門風焉。今襄鄧漢東、法孫極盛者是。

【景】ナシ

【聯】塔于本山。

【五】ナシ

【贊】贊曰、擔鈔走南方、誓滅諸魔子。逢臭老婆點出三心、看小當仁啞無一語。龍潭吹滅紙燭、破蕩家財。德嶠盤結草菴、呵罵佛祖。到瀉山背著草鞋出、活弄目前機。

問巖頭不肯老僧那、會得末後句。虛而靈、空而妙、逢人拋擲爛泥團。毛吞海芥投針、對衆拗折金剛杵。

龍鼻蛇毒因宗乘事入心。飛龍馬驟向作麼中馳步。斫木要瓦棺成褫便休。搖扇喜高亭橫趨而去。誠所謂拆佛殿咬猪狗不近人情底老尊慈。想不是華錦地戀繁華央庠底座主。(Z135-918a)

(一七) 德山の法嗣

【祖】 德山下出 巖頭和尚 雪峯和尚

【宋】 ナシ

【景】 朗州德山宣鑒禪師法嗣九人〔六人見録〕。鄂州巖頭全豁禪師、福州雪峯義存禪師、天台瑞龍院慧恭禪師、泉州瓦棺和尚、襄州高亭簡禪師、洪州感潭貧國和尚。〔德山鵝湖紹爽大師、鳳翔府垢和尚、益州雙流尉遲和尚、已上三人、無機縁語句不録。〕(卷一六・T51-325b)

【聯】 ナシ

【五】 ナシ

II 《上 堂》

(一) 「無事・無心」の話

【祖】 師又曰、汝但無事於心、無心於事。乃虚而妙矣。若毫釐繫念、皆爲自欺。瞥尔生情、万劫羈鎖去。

【宋】 ナシ

【景】 師上堂謂衆曰、於己無事、則勿妄求、而得亦非得。汝但無事於心、無心於事、則虚而靈、空而妙。若毛端許言之本末者、皆爲自欺。毫釐繫念、三塗業因。瞥爾生情、萬劫羈鎖。聖名凡號、盡是虚聲。殊

相劣形、皆爲幻色。汝欲求之、得無累乎。及其厭之、又成大患、終而無益。

【正】 德山和尚示衆云、於已無事、則勿妄求、妄求而得、之亦非得也。汝但於心無事、無事於心、則虛而靈、空而妙。若毫端許言之本末者、皆爲自欺。毫釐繫念、三塗業因。瞥爾情生、萬劫羈鎖。聖名凡號、盡是虛聲。殊相劣形、皆爲幻色。汝欲求之、得無累乎。及其厭之、又成大患、終而無益。(卷三・

Z119-78a)

【聯】 示衆云、於已無事、則勿妄求、妄求而得、亦非得也。汝但無事於心、無心於事、則虛而靈、空而妙。

若毫端許言之本末者、皆爲自欺。何故。毫釐繫念、三塗業因。瞥爾情生、萬劫羈鎖。聖名凡號、盡是虛聲。殊相劣形、皆爲幻色。汝欲求之、得無累乎。及其厭之、又成大患、終而無益。

【五】 上堂、若也於已無事、則勿妄求、妄求而得、亦非得也。汝但無事於心、無心於事、則虛而靈、空而妙。若毛端許言之本末者、皆爲自欺。何故。毫釐繫念、三塗業因。瞥爾情生、萬劫羈鎖。聖名凡號、盡是虛聲。殊相劣形、皆爲幻色。汝欲求之、得無累乎。及其厭之、又成大患、終而無益。

【贊】 示衆曰、汝但無心、於事無事、於心自然、虛而靈、空而妙。若毫端許言之本末者、皆爲自欺。何故。毫釐繫念、三塗業因。瞥爾情生、萬劫羈鎖。聖名凡號、總是虛聲。殊相劣形、皆爲妄色。汝欲求之、得無累乎。及其厭之、又成大患、終無所益。(Z135-917b)

(11) 「三十拄杖」の問答

【祖】 ナシ

【宋】 ナシ

【景】 師上堂曰、今夜不得問話。問話者三十拄杖。時有僧、出方禮拜。師乃打之。僧曰、某甲話也未問、和

尚因什麼打某甲。師曰、汝是什麼處人。曰、新羅人。師曰、汝上船時、便好與三十拄杖。(法眼云、大小德山、語作兩槩。玄覺云、叢林中喚作隔下語且從。只如德山道問話者三十拄杖、意作麼生。)

【統】

鼎州德山宣鑒禪師。〔嗣龍潭〕小參示衆云、今夜不答話。有問話者三十棒。時有僧出禮拜。師便打。

僧云、某甲話也未問。爲甚打某甲。師云、你是甚處人。云、新羅人。師云、未跨船舷、好與三十。(法眼云、大小德山、話作兩槩。德山圓明云、大小德山龍頭蛇尾。雪竇云、此二老宿雖善、裁長補短、舍重從輕。要見德山老漢、亦未可在。何故殊不知、德山握闔外之威權、有當斷不斷、不招莫亂底劍。諸人還識新羅僧麼。只是撞著露柱底瞎漢。芭蕉云、作死馬醫。瑯琊覺云、德山何似履春冰。雖然如此、如猫弄鼠。大瀉喆云、德山大似清平世界鎧甲磨槍。這僧不惜性命身挨白刃。法眼道話作兩槩。大似藥病相治。圓明道、龍頭蛇尾、也是金鏹難辨。雪竇道、撞著露柱瞎漢。截斷衆流。如今還有人與新羅僧作主麼。出來與大瀉相見。乃豎拂云。去去西天路。迢迢十萬餘。)(卷七·典籍叢刊 p.161b~163a)

【聯】

小參示衆云、今夜不答話。問話者三十棒。時有僧、出作禮。師便打。僧云、某甲話也未問、爲甚便打。

師云、爾是甚處人。云、新羅人。師云、未跨船舷時、好與三十棒。(法眼云、大小德山、話作兩槩。德山密云、大小德山、龍頭蛇尾。雪竇云、二尊宿雖善裁長補短、舍重從輕、要見德山老漢、亦未可在。何故殊不知、德山握闔外之威權、有當斷不斷、不招其亂底劍子。諸人要識新羅僧麼。只是撞著露柱底瞎漢。大瀉喆云、德山大似清平世界鎧甲磨槍。這僧不惜性命身挨白刃。)

【五】

小參示衆曰、今夜不答話。問話者三十棒。時有僧、出禮拜、師便打。僧曰、某甲話也未問、和尚因甚麼打某甲。師曰、汝是甚麼處人。曰、新羅人。師曰、未跨船舷、好與三十棒。(法眼云、大小德山、話作兩槩。玄覺云、叢林中喚作隔下語、且從祇如德山道問話者三十棒、意作麼生。)

(三) 「問・不問」の問答

【祖】 師又時云、問則有過、不問則又乖。僧便禮拜、師乃打之。僧云、某甲始禮、爲什麼却打。師云、侍你開口、堪作什麼。

【宋】 ナシ

【景】 師上堂曰、問即有過、不問又乖。有僧、出禮拜。師便打。僧曰、某甲始禮拜、爲什麼便打。師曰、待汝開口、堪作什麼。

【統】 師示衆云、問即有過、不問又乖。時有僧、纔出作禮。師便打。僧云、某甲話也未問、爲甚便打某甲。師云、待你開口、堪作什麼。(卷七・典籍叢刊 p.133b)

【聯】 示衆云、問則有過、不問猶乖。時有僧、出作禮。師便打。僧云、某甲話也未問。爲甚便打。師云。待爾開口。堪作甚麼。

【五】 上堂、問即有過、不問猶乖。有僧出禮拜、師便打。僧曰、某甲始禮拜、爲甚麼便打。師曰、待汝開口、堪作甚麼。

III 《示衆》

(一) 末法の時代

【祖】 ナシ

【宋】 ナシ

【景】 ナシ

【正】 德山和尚示衆云、諸子從朝至暮、有甚麼事。莫要逞驢唇馬嘴、問德山老漢麼。我且不怕你、未審諸子有何疑慮。近來末法時代、多有鬼神群隊、傍家走言、我是禪師、未審學得多少禪道、說似老漢來。

(卷一・2118-37a)

【聯】 示衆云、諸子從朝至暮、有甚麼事。莫要逞驢唇馬嘴、問德山老漢麼。我且不怕爾、未審諸子有何疑慮。近來末法時代、多有鬼神群隊、傍家走言、我是禪師。未審學得多少禪道、說似老漢來。

【五】 ナシ

(一) 老 秃 奴

【祖】 ナシ

【宋】 ナシ

【景】 ナシ

【正】 你、諸方老秃奴教汝修行作佛、傍家走、成得幾箇佛也。你若無可學、又走作甚麼。若有學者、你將取學得底來、呈似老漢看。一句不相當、須喫痛棒始得。你被佗諸方老秃奴魔魅著、便道我是修行人、打硬作模作樣、恰似得道底人面孔。(卷一・2118-37a)

【聯】 爾、諸方老秃奴、教爾修行作佛、傍家行脚、成得幾箇佛也。爾若無可學、又走作甚麼。若有學者、爾將取學得底來、呈似老僧看。一句不相當、須喫痛棒始得。爾被他諸方老秃奴魔魅著、便道我是修行人、打硬作模作樣。恰似得道底人面孔。

【五】 ナシ

(三) 心を用うる莫かれ

【祖】 ナシ

【宋】 ナシ

【景】 ナシ

【正】 莫取次用心。萬劫千生、輪回三界、皆爲有心。何以故、心生則種種法生。若能一念不生、則永脫生死、不被生死纏縛、要行即行、要坐即坐、更有甚麼事。(卷一・2118-37a)

【聯】 莫取次用心。萬劫千生、輪回三界、皆爲有心。何故、心生則種種法生。若能一念不生、則永脫生死、不被生死纏縛、要行即行、要坐即坐、更有甚麼事。

【五】 ナシ

(四) 姪女に相い似たり

【祖】 ナシ

【宋】 ナシ

【景】 ナシ

【正】 仁者、我見你諸人、到處發心、向老秃奴會下、學佛法荷負、不惜身命、皆被釘卻諸子眼睛、斷諸子命根、三二百箇姪女相似、道我王化建立法幢、爲後人開眼目、自救得麼。(卷一・2118-37a)

【聯】 仁者、我見爾諸人、到處發心、向老秃奴會下、學佛法荷負、不惜身命、皆被釘却諸子眼睛、斷諸子命根、三二百箇淫女相似、道我王化建立法幢、爲後人開眼目、自救得麼。

【五】 ナシ

(五) 休歇し去り、無事にし去るに如かず

【祖】 ナシ

【宋】 ナシ

【景】 ナシ

【正】 仁者、如此說修行、你豈不聞道、老胡經三大阿僧祇劫修行、即今何在、八十年後死去、與你何別。諸

子莫狂、勸你不如休歇去、無事去。你瞥起一念心、便是魔家眷屬、破戒俗人。(卷二・2118-37a~b)

【聯】 仁者、如此說修行、豈不聞道、老胡經三大阿僧祇劫修行。即今何在、八十年後死去、與爾何別。諸子莫狂、勸爾不如休歇去、無事去。爾瞥起一念、便是魔家眷屬、破戒俗人。

【五】 ナシ

(六) 你は是れ儂儂兒

【祖】 ナシ

【宋】 ナシ

【景】 ナシ

【正】 你見德山出世、十箇五箇、總擬聚頭來難問、待教結舌無言。你是儂儂兒。今何不出來、破布袋裡盛錘子、不出頭、是好手、我要問你實底、莫錯。仁者波波地傍家走、道我解禪解道、點胸點肋、稱楊稱鄭、

到遮裡、須盡吐卻、始得無事。(卷一・2118-37b)

【聯】 爾見德山出世、十箇五箇、擬聚頭來難問、教結舌無言。爾是儂羅兒。今何不出來、破布袋里盛錫子、不出頭、是 hands、我要問爾實底、莫錯。仁者波波地傍家走、道我解禪解道、點胸點肋、稱楊稱鄭、到這里、須盡吐却、始得無事。

【五】 ナシ

(七) 你方法に与して師と爲れ

【祖】 ナシ

【宋】 ナシ

【景】 ナシ

【正】 你但外不著聲色、內無能所知解、體無凡聖、更學甚麼。設學得百千妙義、只是箇喫瘡疣鬼、總是精魅。我遮箇虛空、道有且不是有、道無且不是無、言凡不凡、言聖不聖、一切處安著佗不得。與你萬法爲師。遮箇老漢、不敢謗佗。所以老胡吐出許多方便涕唾、教你無事去、莫向外求。(卷一・2118-27b)

【聯】 爾但外不著聲色、內無能所知解、體無凡聖、更學甚麼。設學得百千妙義、只是箇吃瘡疣鬼、總是精魅。我這里虛空、道有且不是有、道無且不是無、言凡不凡、言聖不聖、一切處安著他不得。與爾萬法爲師。這箇老漢、不敢謗他。所以老胡吐出許多方便涕唾、教爾無事去、莫向外求。

【五】 ナシ

(八) 佗の閻閻を誑かす

【祖】 ナシ

【宋】 ナシ

【景】 ナシ

【正】 你更不肯、欲得採集殊勝言句、蘊在胸襟、巧說言辭、以舌頭取辨、高著布裙、貴圖人知、道我是禪師、要出頭處。若作如此見解、打那鬼骨臀、入拔舌地獄有日在。到處覓人、道我是祖師門下客、被他問著本分事、口似木揆。便卻與佗說菩提涅槃、真如解脫、廣引三藏言教、是禪是道、誑佗閭閻。有甚麼交涉、謗我先祖。(卷11・2118-37b)

【聯】 爾更不肯、欲得採集殊勝言句、蘊在胸襟、巧說言辭、以舌頭取辨、高著布裙、貴圖人知、道我是禪師、要出頭處。若作如此見解、打那鬼骨臀、入拔舌地獄有日在。到處覓人、道我是祖師門下客、被他問著本分事、口似木揆。便却與佗說菩提涅槃、真如解脫、廣引三藏言教、是禪是道、誑他閭閻。有甚麼交涉、謗我先祖。(757b-758a)

【五】 ナシ

(九) 遮裏に仏も也た無く、法も也た無し

【祖】 ナシ

【宋】 ナシ

【景】 ナシ

【統】 師垂示云、我先祖見處即不然、這裏無佛無祖。達磨是老狐臊、釋迦老子是乾屎橛、文殊普賢是檐屎漢、等覺妙覺是破執凡夫、菩提涅槃是繫驢橛、十二分教是神鬼簿、是拭瘡疣紙。四果三賢、初心十地是守古塚鬼。自救不了。(雲門云、讚佛讚祖、須是德山老人始得。瑯琊云、諸方若與麼會、入地獄如箭。只如雲門

與麼道、也是入地獄如箭射。(卷七・典籍叢刊 p.162b)

【正】 德山老漢、見處即不然、遮裡佛也無、法也無。達磨是老臊胡、十地菩薩是擔糞漢、等妙二覺是破戒凡夫、菩提涅槃是繫驢橛、十二分教是鬼神簿、拭瘡膿紙、四果三賢、初心十地是守古塚鬼。自救得也無。佛是老胡屎橛。仁者莫錯、身被瘡疣衣、學甚麼事。飽喫飯了、說真如涅槃。皮下還有血麼。須是箇丈夫始得。(卷一・Z118-37b-38a)

【聯】 德山老漢、見處即不然、這裡佛也無、祖也無。達磨是老臊胡、十地菩薩是擔屎漢、等妙二覺是破戒凡夫、菩提涅槃是繫驢橛、十二分教是鬼神簿、拭瘡疣紙。四果三賢、初心十地是守古塚鬼。自救得也無。佛是老胡屎橛。仁者莫錯、身披瘡疣衣、學甚麼事。飽吃了飯、說真如涅槃。皮下還有血麼。須是箇丈夫始得。

【五】 上堂、我先祖見處即不然、這裏無祖無佛。達磨是老臊胡、釋迦老子是乾屎橛、文殊普賢是擔屎漢、等覺妙覺是破執凡夫、菩提涅槃是繫驢橛、十二分教是鬼神簿、拭瘡疣紙。四果三賢、初心十地是守古塚鬼。自救不了。

(一〇) 一法として解会を作すもの無し

【祖】 ナシ

【宋】 ナシ

【宗】 德山和尚云、若有一塵一法可得、與汝執取生解、皆落天魔外道。只是箇靈空、尚無纖塵可得。處處清淨、光明洞達、表裏瑩徹。又云、汝莫愛聖、聖是空名。(T89-946a)

【景】 ナシ

【正】汝莫愛聖、聖是空名。向三界十方世間、若有一塵一法可得、與你執取生解、保任貴重者、盡落天魔外道。是有學得底、亦是依草附木、精魅野狐。諸子、老漢此間、無一法與你諸子作解會。自己亦不會禪、老漢亦不是善知識、百無所解。只是屙屎送尿、乞食乞衣、更有甚麼事。(卷二・Z118-38a)

【聯】爾莫愛聖、聖是空名。向三界十方世間、若有一塵一法可得、與爾執取生解、保任貴重者、盡落天魔外道。是有學臨底、亦是依草附木、精魅野狐。諸子、老漢此間、無一法與爾諸子作解會。自己亦不會禪、老漢亦不是善知識、百無所解。只是箇屙屎送尿、乞食乞衣、更有甚麼事。

【五】ナシ

(一一) 無事にし去り、休歇し去るに如かず

【祖】ナシ

【宋】ナシ

【景】ナシ

【正】德山老漢勸你、不如無事去、早休歇去、莫學顛狂。每人擔箇死屍、浩浩地走、到處向老禿奴口裡、愛他涕唾喫、便道我是入三昧、修蘊積行、長養聖胎、願成佛果。(卷二・Z118-38a)

【聯】德山老漢勸爾、不如無事去、早休歇去、莫學顛狂。每人擔箇死尸、浩浩地走、到處向老禿奴口裡、愛他涕唾喫、便道我是入三昧、修蘊積行、長養聖胎、願成佛果。

【五】ナシ

(一一) 閻羅王の草鞋錢

【祖】 ナシ

【宋】 ナシ

【景】 ナシ

【正】 如斯等輩、德山老漢見似毒箭入心、花針亂眼。辜負先祖、帶累我宗、圖陀道我是出家兒、如此消佗十方施主。水也消不得、莫筭道敢向他國王地上行。父母不供甘旨、豈爲無罪。莫錯用心。閻羅王徵你草鞋錢有日在。穿你鼻孔、擊著楸上、償佗宿債、莫言老漢不道。(卷一・2118-38a~b)

【聯】 如斯等輩、德山老漢見似毒箭入心、花針亂眼。辜負先祖、帶累我宗、圖他道我是出家兒、如此消他十方施主。水也消不得、莫筭道敢向他國王地上行。父母不供甘旨、豈爲無罪。莫錯用心。閻羅王徵佗草鞋錢有日在。穿佗鼻孔、系著楸上、償他宿債、莫言不道。

【五】 ナシ

(一二) 一大藏經は只今時の人を整理す

【祖】 ナシ

【宋】 ナシ

【宗】 德山和尚云、若有一塵一法可得。與汝執取生解、皆落天魔外道。只是箇靈空、尚無纖塵可得。處處清淨、光明洞達、表裏瑩徹。又云、汝莫愛聖、聖是空名。更無別法、只是箇兔赫靈空、無礙自在。不是莊嚴修證得。從佛至祖、皆傳此法、而得出離。(卷九八・T48-946a)

【景】 ナシ

【正】 是你諸人、大似有福。遇著德山出世、與你解卻繩索、脫卻籠頭、卸卻角馱、作箇好人去。三界六道、收攝你不得。更無別法、是箇烜赫虛空、無礙自在。不是你莊嚴得底物、從佛從祖、皆傳此法而得出離。一大藏教、只是整理你今時人。諸子莫向別處求覓。乃至達磨小碧眼胡僧、到此來也。只是教你無事去、教你莫造作。著衣喫飯、屙屎送尿、更無生死可怖、亦無涅槃可得、無菩提可證。只是尋常一箇無事人。

(卷一・2118-386)

【聯】 是爾諸人、大似有福。遇著德山出世、與爾解却繩索、脫却籠頭、卸却角馱、作箇好人去。三界六道、收攝爾不得。便無別法、是箇烜赫虛空、無礙自在。不是爾莊嚴得底物、從佛從祖、皆傳此法而得出離。一大藏教、只是整頓爾今時人。諸子莫向別處求覓。乃至達磨小碧眼胡僧、到此來也。只是教爾無事去、教爾莫造作。著衣吃飯、屙屎送尿、更無生死可怖、亦無涅槃可得、無菩提可證。只是尋常一箇無事人。

【五】 ナシ

(一四) 德山老漢は江西馬大師の宗徒にあらず

【祖】 ナシ

【宋】 ナシ

【景】 ナシ

【正】 第一莫拱手作禪師、覓箇出頭處、巧言語、魔魅後生、欲得人喚作長老。自己分上、都無交涉。徒知心識浩浩地、日夜捏怪不休、稱揚稱鄭、我是江西馬大師宗徒。德山老漢、且不是你群隊人。(卷二・

2118-386)

【聯】第一莫拱手作禪師、覓箇出頭處、巧作言事、魔魅後生、欲得人喚作長老。自己分上、都無交涉。徒知心識浩浩地、日夜捏怪不休、稱楊稱鄭、我是江西馬大師宗徒。德山老漢、且不是爾群隊人。

【五】ナシ

(一五) 石頭和尚は好悪を識らざる老漢なり

【祖】ナシ

【宋】ナシ

【景】ナシ

【正】我見石頭和尚不識好惡老漢、所以罵伊。諸子、你但莫著聲色・名言・句義・境致・機關・道理・善惡・凡聖・取捨・攀緣・染淨・明暗・有無諸念。可中與麼得、方是箇無事人。佛亦不如你、祖亦不如你。(卷11・Z118-38b)

【聯】我見石頭和尚不識好惡老漢。所以罵他。諸子、爾莫著聲色・名言・句義・境致・機關・道理・善惡・凡聖・取捨・攀緣・染淨・明暗・有無諸念。可中與麼得、方是箇無事人。佛亦不如爾、祖亦不如爾。

【五】ナシ

(一六) 一念の妄心尽きずんば、即ち是れ生死相統す

【祖】ナシ

【宋】ナシ

【景】ナシ

【正】 仁者、莫走踏汝脚板闊去。別無禪道可學。若有學得者、即是二頭三首、外道見解。亦無神通變現可得。汝道神通是聖、諸天龍神、五通神仙、外道修羅、亦有神通、應可是佛也。孤峰獨宿、一食卯齋、長坐不臥、六時禮念、疑佗生死。老胡有言、諸行無常、是生滅法。若言入定凝神靜慮得者、尼乾子等、諸外道師、亦入得八萬劫大定。莫是佛否、明知邪見精魅。仁者、老胡不是聖、佛是老胡屎橛。且要仁者辨取好惡。莫著人我、免被諸聖橛、菩提橛。解脫殊勝、名言妙義、沒溺繫縛汝。何以故、一念妄心不盡、即是生死相續。仁者、時不待人、莫因循過日、時光可惜。(卷一・Z118-38b-39a)

【聯】 仁者、莫走踏脚板闊去。別無禪道可學。若有學得者、即是二頭三首、外道見解。亦無神通變現可得。汝道神通是聖、諸天龍神、五通神仙、外道修羅、亦有神通、應可是佛也。孤峯獨宿、一食卯齋、長坐不臥、六時禮念、疑他生死。老胡有言、諸行無常、是生滅法。若言入定凝神靜慮得者、尼乾子等、諸外道師、亦入得八萬劫大定。莫是佛否、明知邪見精魅。仁者、老胡不是聖、佛是老胡屎橛。且要仁者辨取好惡。莫著人我、免被諸聖橛、菩提橛。解脫殊勝、名言妙義、沒溺系縛汝。何故、一念妄心不盡、即是生死相續。仁者、時不待人、莫因循過日、時光可惜。

【五】 ナシ

(一七) 無事無依にして、棲泊する所無し

【祖】 ナシ

【宋】 ナシ

【宗】 德山和尚云、若有一塵一法可得、與汝執取生解、皆落天魔外道。只是箇靈空、尚無纖塵可得。處處清淨、光明洞達、表裏瑩徹。(卷九八・T48-946a)

【景】 ナシ

【正】老漢不圖你田舍奴荷負。若肯即信取。若不肯、每人有箇屎鉢、擔取去。老漢亦不求你。諸方大有老秃奴、取一方處所、說禪說道。你急去學取抄取。我此間終無一法與你諸人。仁者問取學取、以爲知解、老漢不能入拔舌地獄。若有一塵一法、示諸人說、言有佛有法有三界可出者、皆是野狐精魅。諸仁者、欲得識麼。只是箇虛空、尚無纖塵可得、處處清淨、光明洞達、表裏瑩徹、無事無依、無棲泊處。有甚麼事。老漢從生至死、只是箇老比丘、雖在三界生而無垢染、欲得出離何處去。設有去處、亦是籠檻、魔得其便。(卷一・Z118-39a)

【聯】老漢不圖佃田庫奴荷負。若肯即信取。若不肯、每人有箇屎鉢、擔取去。老漢亦不求佃。諸方大有老秃奴、取一方處所、說禪說道。佃急去學取抄取。我此間終無一法與佃諸人。仁者問取學取、以爲知解、老漢不能入拔舌地獄。若有一塵一法、示諸人說、言有佛有法有三界可出者、皆是野狐精魅。諸人者、欲得識麼。只是箇虛空、尚無纖塵可得、處處清淨、光明洞達、表裏瑩徹、無欲無依、無栖泊處。有甚麼事。老漢從生至死、只是箇老比丘、雖在三界生而無垢染、欲得出離何處去。設有去處、亦是籠檻、魔得其便。

【五】 ナシ

(一八) 一法として情に当たるべきもの無かるべし

【祖】 ナシ

【未】 ナシ

【景】 ナシ

【正】仁者、莫用身心、無可得、只要一切時中、莫用佗聲色。應是從前行履處、一時放卻、頓脫羈鎖、永離蓋纏、一念不生、即前後際斷、無思無念、無一法可當情。(卷一・2118-39a-b)

【聯】仁者、莫用身心、無可得、只要一切時中、莫用他聲色。應是從前行履處、一時放却、頓脫羈鎖、永離蓋纏、一念不生、即前後際斷、無思無念、無一法可當情。

【五】ナシ

(一九) 曾て渠の面孔を識るや

【祖】ナシ

【宋】ナシ

【景】ナシ

【正】仁者作麼生擬下口觜。你多知解、還會識渠面孔麼。出家兒乃至十地滿心菩薩、覓佗蹤跡不著、所以諸天歡喜、地神捧足、十方諸佛讚歎、魔王啼哭。何以故。緣此虛空活潑潑粧地、無根株無住處。若到遮裡眼孔定動、即沒交涉。(2118-39b)

【聯】仁者作麼生擬下口觜。爾多知解、還會識渠面孔麼。出家兒乃至十地滿心菩薩、覓他蹤跡不得、所以諸天歡喜、地神捧足、十方諸佛贊嘆、魔王啼哭。何以故。緣此虛空活潑潑地、無根株、無住處。若到這里、眼目定動、即沒交涉。

【五】ナシ

(二一〇) 仏を求むること莫かれ、仏は是れ大殺人の賊なり

【祖】 ナシ

【宋】 ナシ

【景】 ナシ

【正】 仁者、莫求佛、佛は大殺人賊、賺多少人、入姪魔坑。莫求文殊普賢、是田舍奴。可惜許、一箇堂堂丈夫兒、喫佗毒藥了、便擬作禪師面孔、見神見鬼。向後狂亂、傍家走、覓師婆、打瓦卜去、被無知老秃奴便即與卜、道教你禮祖師鬼、佛鬼、菩提涅槃鬼。是小姪女子不會、便問如何是祖師西來意、遮老秃奴便打禪床作境致、豎拂子云、好晴好雨好燈籠。巧述言詞、強生節目、言有玄路鳥道展手。若取如是說、如將寶器貯於不淨、如將人糞作旃檀香。(卷一・218-39d)

【聯】 仁者、莫求佛、佛是大殺人賊、賺多少人、入淫魔坑。莫求文殊普賢、是田庫奴。可惜許、一箇堂堂大丈夫兒、吃他毒藥了、便擬作禪師面孔、見神見鬼。向後狂亂、傍家走、覓師婆、打瓦卜去、被無知老秃奴便即與卜、道教爾禮祖師鬼、佛鬼、菩提涅槃鬼。是小淫女子不會、便問如何是祖師西來意、這老秃奴便打繩床作境致。豎起拂子云、好晴好雨好燈籠。巧述言辭、強生節目、言有玄路鳥道展手。若取如是說、如將寶器貯於不淨、如將人糞作旃檀香。

【五】 ナシ

(二一一) 佗の涕唾に接して喫し了わりて、慚無く愧無し

【祖】 ナシ

【宋】 ナシ

【景】 ナシ

【正】 仁者、彼既丈夫、我亦爾、怯弱於誰。竟日就佗諸方老秃奴口背、接佗涕唾喫了、無慚無愧。苦哉苦哉。狂卻子去。因果分明。水牯牛牽犁拽杷、眼睛突出。氣力不登、大棒打你脊。劫佛衣食、道我修行了也。若不明大理、饒你去佛肚裏過來、只是箇能行底屎橛。(卷二・218-39a~40a)

【聯】 仁者、彼既丈夫、我亦爾、怯弱於誰。竟日就他諸方老秃奴口背、接涕唾吃了、無慚無愧。苦哉苦哉。狂却子去。因果分明。水牯牛牽犁拽杷、眼睛突出。氣力不登、大棒打爾脊。劫佛衣食、道我修行了也。若不明大理、饒爾去佛肚裏過來、只是箇能行底屎橛。

【五】 ナシ

(二二) 只だ相似語を將て、解所を勘当せんと欲するのみ

【祖】 ナシ

【宋】 ナシ

【景】 ナシ

【正】 不會遇著好人、便即認得六根門頭光影、向口裏說取露布、是隱言妙句、光彩尖新、爭奈你自家無分。

仁者、是別人涕唾。更有一輩、三三兩兩聚頭商量、甚麼處無事。好、經冬過夏、快說禪道、有知解會義理。仁者、物作如此見解、覓便宜、豈有如此道理。入地獄有日在。莫道不向諸子說。到處菜不擇一莖、柴不般一束、一朝福盡、只是喫草去。虛消信施、濫稱參學、更作禪師模樣、無益於人。自己分上、十二時中行履處、心常附物、見人只欲妖媚掉尾子。指東話西、眼裏口邊、果然不見、只欲將相似語、

勘當解處。(卷二・Z118-40a)

【聯】不會遇著好人、便即認得六根門頭光影、向口裏說取露布、是隱言妙句、光彩尖新、爭奈爾自家無分。仁者、是別人涕唾。更有一輩、三三兩兩聚頭商量、甚麼處無事。好、經冬過夏、快說禪道、有知解會義理。仁者、總作如此見解、覓便宜、豈有如此道理。入地獄有日在。莫道不向諸子說。到處菜不擇一莖、柴不搬一束、一朝福盡、只是吃草去、虛消信施、濫稱參學、更作禪師模樣、無益於人。自己分上、十二時中行履處、心常附物、見人只欲妖媚掉尾子。指東語西、眼裏口邊、果然不見、只欲將相似語、勘當解處。

【五】ナシ

(二三) 人惑を受くること莫かれ

【祖】ナシ

【宋】ナシ

【景】ナシ

【正】老漢與你諸人何別。郎君子、莫取一期眼下口快、喫佗毒藥了、似貪姪女人不持齋戒。瞎禿奴群羊僧、顛卻佗人、入地獄。仁者、莫取次看冊子、尋句義、覓勝負、一遞一口、何時休歇。老漢相勸、不是惡事、切須自帶眼目、辨取清濁、是佛語、是魔語。莫受人惑。所以殊勝名言、皆是老胡一期方便施設、切須休歇去。莫倚一物、領佗言語作解會、揀擇親疎、浮虛詐偽、記佗閑言長語、皆是比量。(卷二・Z118-40a-b)

【聯】老漢與爾諸人何別。郎君子、莫取一期眼下口快、吃他毒藥了、似貪淫女人不持齋戒。瞎禿奴群羊僧、

顛却他人、入地獄。仁者、莫取次看策子、尋句義、覓勝負、一遞一口、何時休歇。老漢相勸、不是惡事、切須自帶眼目、辨取清濁、是佛語、是魔語。莫受人惑。所以殊勝名言、皆是老胡一期方便施設、切須休歇去。莫倚一物、領他言語作解會、揀擇親疎、浮虛詐僞、記他閑言長語、皆是比量。

【五】 ナシ

(二四) 你諸人は老鴉に好似す

【祖】 ナシ

【宋】 ナシ

【景】 ナシ

【正】 仁者、老漢只恐諸子墮坑落壑、作薄福業、事褻脣觜、得少爲足、向靜處立、不肯進前、自惑諸境、亂走佗人、由巡萬法。蓋爲不信虛空本來無事、增減佗不得。你諸人好似老鴉、身在虛空、心在糞堆上、只覓死物喫。諸子、莫道德山老漢不會入叢林商量、高聲罵取、無人情、不怕業。只爲諸子不守分、馳騁四方、傍佗門戶。恰似女姑鬼傳言送語、依事作解、心跡不忘、自猶不立、常負死屍、擔枷帶鎖、五百一千里、來到德山面前、八字立地、如欠伊禪道相似、和尚須爲我說、指示我。(卷一・218-406)

【聯】 仁者、老漢只恐諸子墮坑落壑、作薄福業、事持唇觜、得少爲足、向靜處立、不肯進前、自惑諸境、亂走他、又由巡萬法。蓋爲不信虛空本來無事、增減他不得。爾諸人好似老鴉、身在虛空、心在糞堆頭、只覓死物吃。諸子、莫道德山老漢不會入叢林商量、高聲罵取、無人情、不怕業。只爲諸子不守分、馳騁四方、傍他門戶。恰似女姑鬼傳言送語、依事作解、心跡不忘、自猶不立、常負死屍、擔枷帶鎖、五百一千里、來到德山面前、八字立地、如欠伊禪道相似、和尚須爲我說、指示我。

【五】 ナシ

(二五) 肯わば即ち住ままれ、肯わずんば脱去するに一任す

【祖】 ナシ

【宋】 ナシ

【景】 ナシ

【正】 老漢全體作用、大棒鎧遮田舍奴、罵賊屎孔面、不識好惡、到我遮裏、恰似遇澧州人煮魚羹爛臙一頓、且圖你放下重擔、去卻枷鎖、作箇好人去。還肯麼。若肯即住、不肯一任脱去。珍重。(卷二・2118-40b)

【聯】 老漢全體作用、大棒鎧這田庫奴、罵賊屎孔面、不識好惡、到我這裏、恰似遇澧州人吃魚羹爛臙一頓、且圖爾放下重擔、去却枷鎖、作箇好人去。還肯麼。若肯即住、不肯一任脱去。珍重。

【五】 ナシ

IV 《勘 弁》

(一) 瀉山に抵いたる

【祖】 《瀉山和尚章》 德山行脚時、到瀉山。具三衣上法堂前、東覷西覷了、便發去。侍者報和尚云、適來新到不參和尚便發去。師云、我早个相見了也。(卷一六・禪文化本 p.607)

【宋】 ナシ

【景】師抵于滄山。從法堂西過東回視方丈。滄山無語。師曰、無也無也。便出。至僧堂前乃曰、然雖如此、不得草草。遂具威儀上參。纔跨門、提起坐具喚曰、和尚。滄山擬取拂子。師喝之、揚袂而出。滄山晚間問大眾、今日新到僧何在。對曰、那僧見和尚了、更不顧僧堂便去也。滄山問衆、還識這阿師也無。衆曰、不識。滄曰、是伊將來有把茅蓋頭、罵佛罵祖去在。

【統】師到滄山。挾複子直上法堂、從西過東、從東過西、顧視方丈。偶滄山坐次、殊不顧盼。師乃云、無無。便出。(雪竇著語、勘破了也。)至門首、却云、也不得草草。重具威儀、再入相見。纔跨門、便提起坐具云、和尚。滄山擬取拂子。便喝、拂袖出。(雪竇著語、勘破了也。)滄山至晚問首座、今日新到在甚處。座云、當時背却法堂、著草鞋出去。滄山云、還識此人麼。云、不識。滄山云、此箇阿師、已後向孤峯頂上盤結草庵、呵佛罵祖去在。(雪竇又云、雪上加霜。五祖戒云、德山大似作賊人心虛。滄山也是賊過後張弓。)(卷七·典籍叢刊 p.162a)

【正】德山到滄山。挾複子直上法堂、從西過東、從東過西、顧視云、無無。便出。至門首却云、也不得草草。便具威儀、再入相見。滄山坐次、德山提起坐具云、和尚。滄山擬取拂子。德山便喝、拂袖而出。背却法堂、著草鞋便行。滄山至晚問首座、適來新到在甚處。首座云、當時背却法堂、著草鞋出去。滄云、此子、已後向孤峯頂上盤結草庵、呵佛罵祖去在。(妙喜曰、二尊宿恁麼相見。每人失却一隻眼。)(卷六·Z118-148a)

【聯】師到滄山。挾複子於法堂、從西過東、從東過西、顧視方丈。滄山不顧。師云、無無。便出去。(雪竇著語、勘破了也。)師至門首、却云、也不得草草。却具威儀、再入相見。纔跨門、提起坐具、召云和尚。滄山擬取拂子。師便喝、拂袖而出。(雪竇著語、勘破了也。)滄山至晚問首座、今日新到在甚麼處。座云、當時背却法堂、著草鞋出去了也。滄云、還識此人麼。云、不識。滄云、此子、已後向孤峯頂上盤結草

菴、呵佛罵祖去在。(雪竇著語、雪上加霜。)

【五】直抵瀉山。挾複子上法堂、從西過東、從東過西、顧視方丈曰、有麼有麼。山坐次、殊不顧眄。師曰、無無。便出。至門首、乃曰、雖然如此、也不得草草。遂具威儀、再入相見。纔跨門、提起坐具曰、和尚。山擬取拂子、師便喝拂袖而出。瀉山至晚問首座、今日新到在否。座曰、當時背却法堂、著草鞋出去也。山曰、此子、已後向孤峯頂上盤結草庵、呵佛罵祖去在。

【贊】於是禮辭、直抵瀉山。挾複子上法堂、從東過西、從西過東、顧視方丈曰、有麼有麼。山坐不顧。師曰、無無。便出。至門首乃曰、雖然、也不得草草。遂具威儀、再入相見。纔跨門、提起坐具曰、和尚。山擬取拂子。師便喝拂袖而出。至晚問首座、今日新到在不。座曰、當時背却法堂、著草鞋出去也。山曰、此子、已後向孤峯頂上盤結草庵、呵佛罵祖去在。(T135-917b)

【瀉】德山來參。挾複子上法堂、從西過東、從東過西、顧視方丈云、有麼有麼。師坐次、殊不顧眄。德山云、無無。便出。(雪竇著語、勸破了也。)至門首乃云、雖然如此、也不得草草。遂具威儀、再入相見。纔跨門、提起坐具云、和尚。師擬取拂子。德山便喝。拂袖而出。(雪竇著語、勸破了也。)師至晚問首座、今日新到在否。首座云、當時背却法堂、著草鞋出去也。師云、此子、已後向孤峯頂上盤結草庵。呵佛罵祖去在。(雲竇顯云。雪上加霜。五祖戒云、德山大似作賊人心虛。瀉山也是賊過後張弓。)(T47-578a)

(二) 如何なるか是れ菩提

【祖】問、如何是菩提、師便咄云、出去、莫向這裏竈。

【宋】ナシ

【景】僧問、如何是菩提。師打曰、出去、莫向這裏竈。

【聯】 僧問、如何是菩提。師云、出去、莫向這裏屙。
【五】 僧問、如何是菩提。師打曰、出去、莫向這裏屙。

(三) 如何なるか是れ仏

【祖】 ナシ

【宋】 ナシ

【景】 僧問、如何是佛。師曰、佛即是西天老比丘。

【聯】 問、如何是佛。師云、佛是西天老比丘。

【五】 問、如何是佛。師曰、佛是西天老比丘。

(四) 生案過却

【祖】 師問曰、維那今日幾個新到。對曰、有八個。師曰、一時令來、生案過却。僧問禾山、一時令來、生案過却。此意如何。禾山云、纔出門、便知委下客。僧曰、如何免得此過。禾山曰、萬里元來却肯伊。

【宋】 ナシ

【景】 有僧到參、師問維那、今日幾人新到。對曰、八人。師曰、將來、一時生案著。

【正】 德山問維那、今日幾人新到。曰、八人。山云、喚來、一時生按過。(卷一・Z118-47a)

【聯】 ナシ

【五】 僧參、師問維那、今日幾人新到。曰、八人。師曰、喚來、一時生按著。

(五) 路に達道の人に逢う

【祖】 ナシ

【宋】 ナシ

【景】 ナシ

【正】 朗州德山和尚。僧問、路逢達道人、不將語默對。未審將甚麼對。曰、祇恁麼。僧良久。師曰、汝更問。僧再問。師乃喝出。(妙喜云、不妨好一喝、只是下得太遲。)(卷五・218-130b)

【聯】 僧問、路逢達道人、不將語默對。未審將甚麼對。師云、只恁麼。僧良久。師云、汝更問、看。僧擬再問。師便喝出。

【五】 ナシ

(六) 獅子・畜生

【祖】 師見僧來、便閉却門。僧便敲門。師問、阿誰、僧云、師子兒。師便開門。其僧便禮拜。師騎却頭云、者畜生什麼處去來。

【宋】 ナシ

【景】 師見僧來、乃閉門。其僧敲門。師曰、阿誰。曰、師子兒。師乃開門。僧禮拜。師便騎項曰、這畜生什麼處去來。

【統】 師一日見僧來、乃閉却門。僧敲門。師云、阿誰。云、師子兒。師便開門。僧纔設拜。師驀項騎云、這畜生甚處去來。(卷七・典籍叢刊 p.162b)

【聯】師見僧來、閉却門。僧敲門。師問、阿誰。云、師子兒。師開門。僧作禮。師鐘項騎云、這畜生甚處去來。

【五】師見僧來、乃閉門。其僧敲門。師曰、阿誰。曰、師子兒。師乃開門。僧禮拜。師騎僧項曰、這畜生甚麼去來。

(七) 臨濟と徳山

【祖】《臨濟和尚章》師問落浦、從上有一人行棒、有一人行喝。還有親疎也無。落浦云、如某甲所見、兩個惣不親。師云、親處作摩生。落浦遂喝、師便打之。因徳山見僧參、愛趁打。師委得令侍者到徳山。打汝汝便接取拄杖、以拄杖打一下。侍者遂到徳山、皆依師指。徳山便歸丈室、侍者却歸舉似。師云、從來疑這箇老漢。(卷一九・禪文化本 p.718)

【宋】ナシ

【景】師尋常遇僧到參、多以拄杖打。臨濟聞之、遣侍者來參。教令徳山若打、汝但接取拄杖當胸一拄。侍者到方禮拜。師乃打。侍者接得拄杖與一拄。師歸方丈、侍者廻舉似臨濟。濟云、從來疑這箇漢。(巖頭云、徳山老人、尋常只據目前一个杖子、佛來亦打、祖來亦打。爭奈較些子。東禪齋云、只如臨濟道、我從前疑這漢、是肯底語、不肯語、爲當別有道理、試斷看。)

【臨】師侍立徳山次、山云、今日困。師云、這老漢寐語作什麼。山便打。師掀倒繩床。山便休。(卷一・T47-505a)

【統】《鎮府臨濟慧照禪師章》師聞徳山或示衆云、道道、道得也三十棒、道不得也三十棒。師令侍者〔即洛浦也。〕去見他如是道、便問道得爲甚也三十棒。待伊若打你、接拄杖推一推。者去一如指教。徳山被

一推倒、便歸方丈、閉却門。者廻、舉似師。師云、我從來疑著這漢。雖然如是、你還見德山麼。者擬議。師便打。(巖頭云、德山尋常只據目前一箇拄杖子、佛來也打、祖來亦打。爭奈較些子。)(卷五·典籍叢刊 p.112b)

《同右》師侍德山次、山云、今日困。師云、這老漢寐語作麼。(或云、德山廻顧云、欲借一問得麼。師便喝。)山便打。師掀倒禪床。(雪竇云、二員作者、具啐啄同時眼、有啐啄同時用。雪竇擬向飢鷹爪下奪肉、餓虎口裏爭食。敢謂、德山臨濟、俱是瞎漢。有人辨得、天下橫行。雲峯悅云、奇恠諸德、看此二員作家、一撻一捺、略露風規、大似把手上高山。雖然如是、未免傍觀者哂。且道誰是傍觀者。喝一喝。下座。)(同右·p.109b)

【聯】《鎮州臨濟義玄禪師章》師問德山示衆云、道道、道得也三十棒、道不得也三十棒。時洛浦作侍者。師令洛浦去、囑之云、汝去。若見渠恁麼道便問、既是道得爲甚麼也三十棒。他若打、爾便接住拄杖推一推。浦如所教。山果行棒、被浦推倒。山起、便歸方丈。浦回舉似師。師云、我從來疑著這漢。雖然如是、爾還見德山麼。浦擬議。師便打。(卷九·Z136-590b)

《同右》師侍立德山次、山云、今日困。師云、老漢寐語作麼。山便打。師便掀倒繩床。(同右·Z136-576a)

【五】示衆曰、道得也三十棒、道不得也三十棒。臨濟聞得謂洛浦曰、汝去問他、道得爲甚麼也三十棒。待伊打汝、接住棒送一送、看伊作麼生。浦如教而問、師便打。浦接住送一送、師便歸方丈。浦回舉似臨濟。濟曰、我從來疑着這漢。雖然如是、你還識德山麼。浦擬議。濟便打。(巖頭云、德山老人、尋常祇據一條白棒、佛來亦打、祖來亦打、爭奈較些子。東禪齊云、祇如臨濟道、我從前疑着這漢、是肯底語、不肯底語、爲當別有道理、試斷看。)

(八) 黄河三千年に一度清し

【祖】 ナシ

【宋】 ナシ

【景】 ナシ

【統】 師因一僧相看。乃近前作相撲勢。師云、與麼無禮。合喫山僧手裏棒。僧拂袖便行。師云、饒汝如也是也。只得一半僧。轉身便喝。師打云、須是我打你始得。僧云、諸方有明眼人在。師云、天然有眼僧、擘開眼云、猫。便出。師云、黄河三千年一度清。(卷七・典籍叢刊 p.162b)

【聯】 有僧來相看、作相撲勢。師云、與麼無禮。合喫山僧手中棒。僧拂袖便行。師云、饒爾如是、也只得一半。僧轉身便喝。師便打云、須是我打爾始得。僧云、諸方有明眼人在。師云、天然有眼。僧擘開眼云、猫。便出。師云、黄河三千年一度清。

【五】 有僧相看、乃近前作相撲勢。師曰、與麼無禮。合喫山僧手裏棒。僧拂袖便行。師曰、饒汝如是、也祇得一半。僧轉身便喝。師打曰、須是我打你始得。曰、諸方有明眼人在。師曰、天然有眼。僧擘開眼曰、猫。便出。師曰、黄河三千年一度清。

(九) 鎧 鄒 の 劍

【祖】 龍牙問、學人仗鎧鄒劍、擬取師頭時如何。云、你作麼生下手。龍牙曰、與摩則師頭落也。師不答。龍牙後到洞山、具陳上事。洞山云、把將德山落底頭來。龍牙無對。

【宋】 ナシ

【景】龍牙問、學人仗鎧鋤、擬取師頭時如何。師引頸。(法眼別云、汝向什麼處下手。)龍牙曰、頭落也。師微笑。龍牙後到洞山、舉前語洞山。山曰、德山道什麼。云、德山無語。洞山曰、莫道無語、且將德山落底頭、呈似老僧。龍牙省過懺謝。有人舉似師。師曰、洞山老人不識好惡。這箇漢死來多少時。救得有什麼用處。

【統】《潭州龍牙居遁禪師章》師曾問德山、學人仗鎧鋤、取師頭時如何。山引頸近前云、因。師云、頭落也。山呵呵大笑。師後到洞山、舉似前話。洞云、德山道什麼云。山無語。洞云、莫道無語、且將德山落底頭、呈似老僧看。師方省便懺謝。後有舉似德山。山云、洞山老人不識好惡。這漢死來多少時。救得有甚用處。(有本意同語異。)(保福云、龍牙只知進前、不知失步。翠巖芝云、龍牙當斷不斷、如今作麼生斷。)(卷八·典籍叢刊 p.170b)

【聯】《潭州龍牙居遁禪師章》師問德山、學人仗劍、取師頭時如何。山近前引頸云、因。師云、頭落也。山呵呵大笑。師後舉似洞山。山云、德山道什麼。師云、他無語。山云、無語且致、將德山落底頭來、呈似老僧看。師於是有省。遂焚香、遙禮懺謝。後有僧、舉似德山。山云、洞山老人、不識好惡。這漢死來多少時了也。救得有甚用處。(保福展云、龍牙只知進前、不知失步。翠巖芝云、龍牙當斷不斷、如今作麼生斷。)(卷二一·Z136-800a)

【五】龍牙問、學人仗鎧鋤、擬取師頭時如何。師引頸近前曰、因。(法眼別云、汝向什麼處下手。)牙曰、頭落也。師呵呵大笑。牙後到洞山、舉前話、山曰、德山道什麼。牙曰、德山無語。洞曰、莫道無語、且將德山落底頭、呈似老僧看。牙方省便懺謝。有僧舉似師、師曰、洞山老人不識好惡。這漢死來多少時。救得有甚麼用處。

【洞】《瑞州洞山良价禪師語錄》龍牙問德山、學人仗鎧鋤、擬取師頭時如何。德山引頸近前云、因。龍牙

云、頭落也。德山呵呵大笑。龍牙後到洞山、舉前話。師云、德山道甚麼。龍牙云、德山無語。師云、莫道無語、且將德山落地頭、呈似老僧看。龍牙方省。便懺謝。（後有舉似德山。德山云、洞山不識好惡。這漢死來多少時。救得有甚用處。保福展拈云、龍牙只知進前、不知失步。翠岩云、龍牙當斷不斷、如今作麼生斷。東禪觀云、龍牙抱劍傷身、自招過咎。德山爲頭作主、幸好機籌。忽被洞山指蹤、不覺尾巴露出。）
(T47-522c)

(一〇) 一句の仏法

【祖】《龍牙和尚章》師問德山、遠聞德山一句佛法、及至到來、未曾見和尚說一句佛法。德山云、嫌什麼。師不肯、當時便發去。後到洞山、只問前話。洞山云、爭怪得某甲、師當時便住。（卷八・禪文化本 p.333）

【宋】ナシ
【景】《龍牙山居遁禪師章》謁德山問曰、遠聞德山一句佛法、及乎到來、未曾見和尚說一句佛法。德山曰、嫌什麼。師不肯。乃造洞山、如前問之。洞山曰、爭怪得老僧。師復舉、德山頭落語、因自省過。遂止于洞山、隨衆參請。（卷一七・T51-337b）

【聯】ナシ

【五】ナシ

【洞】《筠州洞山悟本禪師語錄》龍牙謁德山問云、遠聞德山一句佛法。及乎到來、未曾見和尚說一句佛法。德山曰、嫌什麼。牙不肯。乃造師法席、如前問之。師曰、爭怪得老僧。龍牙又舉、某甲日前問德山。學人仗鎧鄒劍擬取師頭時如何。山引頸近前曰、因。龍牙云、頭落也。山微笑。師曰、德山道什麼。云、

德山無語。師曰、莫道無語、且將德山落底頭、呈似老僧。牙省過懺謝。遂止于師席、隨衆參請。
(T47-514a)

(一一) 廓侍者との問答

【祖】 ナシ

【宋】 ナシ

【景】 ナシ

【正】 德山和尚、因廓侍者問、從上諸聖向甚麼處去。山云、作麼作麼。廓云、勅點飛龍馬、跛鼈出頭來。山便休去。次日浴出。廓過茶與山。山於廓背上拊一下云、昨日公案作麼生。廓云、遮老漢今日方始瞥地。山又休去。(卷五・2118-126b)

【聯】 守廓侍者。師一日自語云、從上諸聖向甚麼處去。德山聞云、作麼作麼。師云、勅點飛龍馬、跛鼈出頭來。山休去。明日浴出。郭過茶與山。山撫師背云、昨日公案作麼生。師云、這老漢今日方瞥地

【五】 廓侍者問、從上諸聖向甚處去。師曰、作麼作麼。廓曰、勅點飛龍馬、跛鼈出頭來。師休去。來日浴出。廓度湯與師。師撫背云、昨日公案如何。廓曰、者老漢今日方始瞥地。師休去。

(一二) 慧恭との問答

【祖】 ナシ

【宋】 ナシ

【景】 《天台龍院慧恭禪師章》遊方謁德山鑒禪師。鑒問曰、會麼。恭曰、作麼。鑒曰、請相見。恭曰、識

麼。鑿大笑、遂入室焉。暫鑿順世、與門人之天台瑞龍院、大開法席。(卷一六・T51-328b)

【聯】 ナシ

【五】 ナシ

(一一三) 瓦棺との問答

【祖】 ナシ

【宋】 ナシ

【景】《瓦棺和尚章》泉州瓦棺和尚。德山問曰、汝還會麼。師曰、不會。德山曰、汝成持取箇不會好。師曰、不會又成持箇什麼。德山曰、汝大似箇鐵橛。師遂摳衣德山。(卷一六・T51-328b)

【統】《泉州瓦棺和尚章》泉州瓦棺和尚、爲德山侍者時、同德山入山斫木。德將一碗水與師。師接得便喫却。德云、會麼。師云、不會。山又將一碗水與師。接又喫却。山云、會麼。師云、不會。山云、何不成褌取那不會底。師云、不會又成褌箇什麼。山云、子大似箇鐵橛。師住後、雪峯去訪。茶話次、峯問、當時在德山、斫木因緣作麼生。師云、先師當時肯我。峯云、和尚離先師太早。其時面前有一碗水。峯云、將水來、師便過與峯、接得便潑却。(雲門代云、莫壓良爲賤。)(卷八・典籍叢刊 p.186a)

【聯】《泉州瓦棺和尚章》泉州瓦棺和尚。師在德山爲侍者。德山斫木欲。山將一盃水度與師。師接得吃却。山云、會麼。師云、不會。山以將一盃水度與師。師接得吃却。山云、會麼。師云、不會。山云、何不成褌取那不會底。師云、不會又成褌箇甚麼。山云、大似箇鐵橛。師住後、雪峯相訪。茶話次、峯問、當年在德山、斫木因緣作麼生。師云、先師當時肯我。峯云、和尚離先師太早。其時面前有一碗水。峯云、將水來、師度與峯。峯接得便澆却。(卷一一一・Z136-790a)

【五】 ナシ

【贊】師一日同瓦棺入山斫木。師將一椀水與棺、棺接得便喫。師曰、會麼。棺曰、不會。師又將一椀水與棺。棺接得又喫。師曰、會麼。棺曰、不會。師曰、何不成褫取不會底。棺曰、不會又成褫箇什麼。師曰、子大似箇鐵椀。(Z135-918a)

(一四) 高亭を扇で招く

【祖】 ナシ

【宋】 ナシ

【景】《襄州高亭簡禪師章》襄州高亭簡禪師、初隔江見德山、遙合掌云、不審。德山以手中扇子招之。師忽開悟、乃橫趨而去、更不回顧。後於襄州開法。嗣德山。(卷一六・T51-328a)

【統】《襄州高亭簡禪師章》襄州高亭簡禪師、初往叅德山。隔江見德山、在江岸坐。乃隔江問訊。山以手招之。師忽開悟。便橫趨而過、更不渡江。遂返高亭住持。(卷八・典籍叢刊 p.186a)

【正】高亭簡和尚、初參德山。隔江見德山、在江岸坐。乃隔江問訊。山以手招之。簡豁然開悟。便橫趨而過、更不渡江。遂返高亭住持。(卷六・Z118-142a)

【聯】《襄州高亭簡禪師章》襄州高亭簡禪師。師初見德山、在江岸坐、即隔江問訊。山以扇子招之。師忽然契悟。橫趨而過、更不渡江。遂返高亭住持。(卷二一・Z136-790b)

【五】 ナシ

【贊】師隔江見高亭云、不審。師乃搖扇招之。高亭開悟便橫趨而去。師凡住院拆却佛殿獨存法堂而已。(Z135-918a)

(一五) 巖頭との機縁

【祖】《巖頭和尚章》後參德山。初到參、始擬展坐具設禮。德山以杖挑之、遠擲塔下。師因便下塔收坐具。相看主事參堂。德山諦視久而自曰、者阿師欲似一箇行脚人。私記在懷。來晨、師上法堂參。德山問、闍梨是昨晚新到豈不是。對云、不敢。德山云、什麼處學得虛頭來。師云、某甲終不自誑。德山呵云、他向後老漢頭上痾著。師禮而退藏密機。既盤泊數載、盡領玄旨。(卷七·禪文化本 p.269-270)

【宋】《釈全豁章》詣武陵德山。藥病相應、更無疑滯。(卷三三·T50-856c)

【景】《鄂州巖頭全豁禪師章》後參德山和尚。執坐具上法堂瞻視。德山曰、作麼。師咄之。德山曰、老僧過在什麼處。師曰、兩重公案。乃下參堂。德山曰、這箇阿師、稍似箇行脚人。至來日上問訊。德山曰、闍梨是昨日新到否。曰、是。德山曰、什麼處學得這箇虛頭來。師曰、全豁終不自誑。德山曰、他後不得孤負老僧。(卷一六·T51-326a)

【聯】《鄂州巖頭全豁禪師章》鄂州巖頭全豁禪師。泉州柯氏子。初謁德山、執坐具上法堂瞻視。山云、作麼。師便喝。山云、老僧過在甚麼處。師云、兩重公案。便下參堂。山云、好箇阿師、稍似箇行脚僧。師來日却上問訊。德山云、莫是昨日新到麼。云、是。山云、甚麼處學得這虛頭來。師云、某甲終不敢自瞞。山云、他後不得辜負老僧。(卷一一·Z136-778a)

【五】《鄂州巖頭全豁禪師章》後參德山。執坐具上法堂瞻視。山曰、作麼。師便喝。山曰、老僧過在甚麼處。師曰、兩重公案。乃下參堂。山曰、這箇阿師、稍似箇行脚人。至來日上問訊。山曰、闍梨是昨日新到否。曰、是。山曰、甚麼處學得這虛頭來。師曰、全豁終不自誑。山曰、他後不得孤負老僧。(卷七·

(一六) 「凡聖」の問答（巖頭拜喝）

【祖】巖頭問、凡聖相去多少。師喝一聲。

【宋】ナシ

【景】《鄂州巖頭全豁禪師章》僧問、凡聖相去多少。師便喝。

《同右》他日參師、入方丈門側身問、是凡是聖。德山喝。師禮拜。有人舉似洞山。洞山曰、若不是豁上座、大難承當。師聞之乃曰、洞山老人不識好惡、錯下名言。我當時一手擡一手擲。（卷一六・T51-326a）

【統】《鄂州巖頭全豁禪師章》鄂州巖頭全豁禪師、叅德山。纔跨門、便問、是凡是聖。山便喝。師便拜。洞山聞舉乃云、若不是豁公、也大難承當。師云、洞山老漢不識好惡、錯下名言。我當時一手擡一手擲。（雪竇云、然則德山門下、草偃風行、要且不能塞斷天下人口。當時纔拜劈脊便打、非唯勸絕洞山、亦乃把定豁老。還會麼。李將軍有嘉聲在、不得封侯也是閑。）（卷八・典籍叢刊 p.187a）

【聯】ナシ

【五】僧問、凡聖相去多少。師便喝。

【贊】《巖頭歲禪師章》一日參山方跨門便問、是凡是聖。山便喝。師禮拜。有僧舉似洞山。山曰、若不是窺公大難承當。師曰、洞山老人不識好惡、錯下名言。我當時一手擡一手擲。（卷一・Z135-918b）

【洞】巖頭參德山。頭入方丈門跨門問、是凡是聖。山便喝。頭禮拜。有人舉似師。師曰、若不是巖上座、大難承當。頭曰、洞山老人不識好惡、錯下名言。我當時一手擡一手擲。琅琊覺云、巖頭無人問著、不妨奇特。纔被洞山腦後一錐。直得瓦解冰消。（T47-514c）

(一七) 巖頭との「二僧有り」の話

【祖】 ナシ

【宋】 ナシ

【景】 ナシ

【統】 師因德山一日云、我這裏有兩僧。入山住庵多時。汝去彼看他怎生。師遂將一斧去。見二人在庵內坐。師乃拈起斧云、道得也一下斧、道不得也一下斧。二人殊不顧。師擲下斧云、作家作家。歸舉似德山。

山云、他如何。師云、洞山門下、不道全無。若是德山門下、未夢見在。(卷八・典籍叢刊 p.184a)

【聯】 《鄂州巖頭全豁禪師章》德山謂師云、我這裏有二僧。住菴多時。汝去看他怎生。師將一斧去。見二人在菴內坐。師提起斧云、道得也一斧、道不得也一斧。二人殊不顧。師躑下斧云、作家作家。歸舉似德山。山云、爾道他如何。師云、洞山門下、不道全無。德山門下、未夢見在。(卷一一・Z136-780b)

【五】 ナシ

(一八) 德山卓牌

【祖】 《巖頭和尚章》師云、德山老漢、只憑目前一箇白棒。曰、佛來也打、祖來也打。雖然如此、交些子。

(卷七・禪文化本 p.272)

《同右》 師在鄂州遇沙汰、只在湖邊作渡船人。湖兩邊、各有一片板。忽有人過打板一下。師便提起楫子云、是阿誰。對云、要過那邊去、師便剗船過。(同右・禪文化本 p.273)

【宋】 ナシ

【景】 ナシ

【事】 《徳山卓牌條》 徳山卓牌於鬧市。牌上書字云、佛來也打、祖來也打。傳燈巖頭卓牌。巖頭廢教後、在鄂州湖邊作渡子。兩岸立板牌、一所書云、如有渡者、請擊此牌一下。凡有擊者、師乃舞撓而渡之。然徳山卓牌、未見所出。(Z113-25b)

【聯】 ナシ

【五】 ナシ

(一九) 雪峰を喚ぶ

【祖】 其於訓授、天險海深、難窺邊際。雪峰參見、鑒深肯重。

【宋】 ナシ

【景】 師令侍者喚義存〔即雪峰也。〕存上來。師曰、我自喚義存、汝又來作什麼。存無對。

【聯】 ナシ

【五】 ナシ

(二〇) 雪峰との問答を長慶が拈ず

【祖】 雪峰在徳山時、上法堂見和尚便轉。師曰、此子難偕。

【宋】 ナシ

【景】 ナシ

【聯】 ナシ

【五】 ナシ

(一一) 南泉斬猫

【祖】 因南泉第一座、養猫兒隣床損脚。因此相諍。有人報和尚、和尚便下來。拈起猫兒云、有人道得摩、有人道得摩。若有人道得、救這箇猫兒命、無對。南泉便以刀斬作兩橛。雪峯問師、古人斬猫兒意、作摩生。師便趂打雪峯、雪峯便走。師却喚來云、會摩。對云、不會。師云、我與摩老婆、你不會。師問巖頭、還會摩。對云、不會。云、成持取不會好。進曰、不會成持箇什摩。師云、你似橛鐵。

【宋】 ナシ

【景】 雪峯問、古人斬猫兒意如何。師乃打趂。却喚曰、會麼。峯曰、不會。師曰、我恁麼老婆也不會。

【聯】 ナシ

【五】 ナシ

(一二) 歸宗斬蛇

【祖】 德山ノ語ナシ

【宋】 德山ノ語ナシ

【雪】 舉。歸宗鋤草次、見一條蛇、以鋤斬之。僧見便問、久響歸宗、元來是箇麁行沙門。宗云、爾麁我麁。後雪峰問德山、古人斬蛇意旨如何。德山便打。雪峰便走。德山召云、布衲。雪峰迴首。德山云、他後悟去、方知老漢徹底老婆心。(卷一・T47-672c)

【景】 德山ノ語ナシ

【統】《廬山歸宗寺智常禪師章》（師因割草次、有座主來參。偶見一蛇過。師遂鋤斷之。主云、久響歸宗、元來是箇

癡行沙門。〔或云、座主歸堂喫茶。〕或云、你癡我癡。主云、如何是癡。師豎起鋤頭云、如何是細。師作斬蛇勢。

主云、與麼則依而行之。師云、依而行之、且致、你甚處見我斬蛇。主無對。雪峯問德山、古人斬蛇意旨如何。山便打。峯便走。山召云、布衲子。峯迴首。山云、佗後悟去、方知老漢徹底老婆心。（以下略）

（卷二・典籍叢刊 p.51a-b）

*（一）ここでは徳山の資料を優先するため、本則の文字を小さくした。

【正】歸宗和尚割草次、有講僧來參。忽有一蛇過。宗以鋤斷之。僧云、久響歸宗、元來是箇癡行沙門。宗按

鋤顧視僧曰、你癡我癡。後來雪峯問徳山、古人斬蛇意旨如何。徳山便打。雪峯便走。徳山召云、布衲

雪峰回首。徳山云、佗後悟去、方知老漢徹底老婆心。（卷一・Z118-14b）

【聯】雪峯問、古人斬蛇、意旨如何。師便打。峯便走。師召云、布衲。峯回首。師云、他後悟去、方知老漢

徹底老婆心。

【五】徳山ノ語ナシ

（二三） 我が宗に語句なし

【祖】《巖頭和尚章》方武陵。纔見徳山、如逢宿契。便問、從上宗乘事、學人還有分也無。徳山起來打之云、

道什麼。師於言下頓承旨要、對云、學人罪過。徳山云、擔負己身、詢他輕重。師禮謝而退。（卷七・禪

文化本 p.279）

《雪峰和尚章》雪峯問徳山、從上宗乘、和尚此間如何稟授與人。徳山云、我宗無語句、實無一法與人。

師聞學云、徳山老漢、一條脊梁骨拗不折。雖然如此、於唱教中、猶較些子。（卷七・禪文化本 p.271）

【宋】ナシ

【景】雪峰問、從上宗風、以何法示人。師曰、我宗無語句、實無一法與人。巖頭聞之曰、德山老人、一條脊梁骨、硬似鐵、拗不折。然雖如此、於唱教門中猶較些子。(保福拈問招慶、只如巖頭出世、有何言教過於德山、便恁麼道。慶云、汝不見巖頭道、如人學射、久久方中。福云、中時如何。慶云、展圍梨莫不識痛痒。福云、和尚今日非唯舉話。慶云、展圍梨是什麼心行。明昭云、大小招慶錯下名言。)

【聯】《福州雪峰義存禪師章》後參德山。遂問、宗乘中事、學人還有分也無。山和聲使棒。師當下如桶底脫相似。山復語之云、我宗無語句、亦無一法與人。(卷一一・2136-781b)

《蘄州五祖法演禪師章》示衆。舉、德山和尚因僧問、從上諸聖以何法示人。山云、我宗無語句、亦無一法與人。雪峰從此有省。後有僧、問雪峰云、和尚見德山、得箇甚麼、便休去。峰云、我當時空手去、空手歸。(卷一六・2136-885b)

【五】雪峰問、從上宗乘、學人還有分也無。師打一棒曰、道甚麼。曰、不會。至明日請益、師曰、我宗無語句、實無一法與人。峯因此有省。巖頭聞之曰、德山老人一條脊梁骨、硬似鐵、拗不折。然雖如此、於唱教門中、猶較些子。(保福問招慶、祇如巖頭出世、有何言教過於德山、便恁麼道。慶云、汝不見巖頭道、如人學射、久久方中。福云、中後如何。慶云、展圍梨莫不識痛痒。福云、和尚今日非唯舉話。慶云、展圍梨是甚麼心行。明昭云、大小招慶、錯下名言。)

【贊】《雪峰真覺禪師章》雪峰問師、從上宗乘事某甲還有分也無。師曰、道甚麼。峯有省。某甲因問、德山從上宗乘中事、學人還有分也無。山打一棒云、道甚麼。我當下如桶底脫相似。(卷一・2135-920b)

【峰】師謁德山問、從上宗乘、學人還有分也無。山打一棒曰、道甚麼。師曰、不會。至明日請益、山曰、我宗無語句、實無一法與人。師有省。(卷一・2119-944b)

(二四) 天皇 恁麼

【祖】欽山問天皇、也與摩、未審德山作麼生道。師曰、試舉天皇龍潭看。欽山禮拜、師乃打之。雲大師代曰、與摩則自置虛言已失。

【宋】ナシ

【景】《澧州欽山文邃禪師章》一日問德山曰、天皇也恁麼道、龍潭也恁麼道。未審德山作麼生道。德山曰、汝試舉天皇龍潭道底來。師方欲進語。德山以拄杖打、昇入涅槃堂。師曰、是即是、打我大殺。(法眼別云、是即是、錯打我。更有語句、如德山巖頭章出焉。)(卷一七・T51-30a)

【統】《澧州欽山文邃禪師章》師與巖頭雪峰同到德山。師乃問、天皇也與麼道、龍潭也與麼道。未審德山作麼生道。山云、汝試舉天皇龍潭底看。師擬議。山便打。師被打歸延壽堂云、是即是、打我大煞。巖頭云、汝與麼、他後不得道見德山。(雪竇云、諸德欽山、致箇問端、甚是奇特。爭奈龍頭虵尾。汝試舉天皇龍潭底看。坐具便搥。大丈夫漢、捋虎鬚也是本分。他既不能、德山令行一半。令若盡行、雪峰巖頭、物是涅槃堂裏漢。翠巖芝云、欽山只顧其前、不顧其後。如今作麼生與欽山出氣。五祖戒云、德山只解打死欽山、不會打活欽山。大滂詰云、德山門下、草偃風行。大滂不然。待問未審和尚作麼生道、劈脊便打。且道、德山是、大滂是。會麼。

橫按鎮鄒全正令、太平寰宇斬癡頑。(卷八・典籍叢刊 p.172b)

【聯】《澧州欽山文邃禪師章》澧州欽山文邃禪師。福州人也。同巖頭雪峰見德山。師問德山、天皇也恁麼道、龍潭也恁麼道。未審和尚作麼生道。山云、爾試舉天皇龍潭底看。師擬議。山便打。師下延壽堂云、是即是、打我大殺。巖頭云、若恁麼、他後不得道見德山來。(卷二一・Z136-803b)

【五】ナシ

(二五) 德山 托鉢

【祖】 ナシ

【宋】 ナシ

【景】《鄂州巖頭全豁禪師章》雪峯在德山作飯頭。一日飯遲。德山掌鉢下法堂。雪峯曬飯巾次、見德山乃曰、鐘未鳴鼓未打、老和尚向什麼處去。德山却歸方丈。師在堂中、問之拊掌曰、大小德山、猶未會末後句。德山聞舉、令侍者喚巖頭去問、你不肯老僧那。巖頭密啓其意。師來日上堂說話、異於尋常。巖頭到僧堂撫掌大笑云、且喜得堂頭老漢、會末後句。他後天下人不奈何。雖然如是、也祇得三年。三年後果然遷化矣。(卷一六・T51-326a)

【統】《福州雪峯義存禪師章》師在德山作飯頭。一日飯遲。方曬飯巾次、乃見德山自托鉢至法堂上。師遂問、這老漢、鐘未鳴鼓未響、托鉢向什麼處去。山便迴方丈。師次舉似巖頭。頭云、大小德山、不會末後句。山聞令侍者喚巖頭去問、汝不肯老僧那。巖遂密啓其意。山乃休去。至明日陞堂、果與尋常不同。巖至僧堂前、撫掌大笑云、且喜得老漢會末後句。他後天下人不奈何。雖然如是、也只得三年。(卷八・典籍叢刊 p178b)

【正】德山和尚、一日飯遲。先托鉢下堂。雪峯時作飯頭。纔見便問、遮老漢鐘未鳴、鼓未響、托鉢向甚麼處去。山便歸方丈。雪峯舉似巖頭。頭云、大小德山、不會末後句。山聞舉令侍者喚巖頭來問、汝不肯老僧那。巖頭密啓其意。山來日上堂、與尋常說話不同。頭向堂前撫掌大笑云、且喜堂頭老漢會末後句。他後天下人不奈何。雖然如是、只得三年。後二年果遷化。(卷一・Z118-52a)

【聯】《福州雪峰義存禪師章》師在德山作飯頭。一日飯遲。師曬飯巾次、見德山托鉢至法堂前。師云、這老

漢鍾未鳴鼓未響。托鉢向甚麼處去。山便歸方丈。師舉似巖頭。頭云、大小德山不會末後句。山問令侍者喚巖頭來。山問、汝不肯老僧那。頭密啓其意。山休去。明日升堂、果與尋常不同。頭至僧堂前、撫掌大笑云、且喜得、堂頭老漢、會末後句。他後天下人、不柰伊何。雖然如是、也只得三年。後三年果遷化。(卷111・Z136-782a)

【五】《鄂州巖頭全藏禪師章》雪峯在德山作飯頭、一日飯遲。德山擊鉢下法堂。峯曬飯巾次、見德山乃曰、鐘未鳴、鼓未響、拓鉢向甚麼處去。德山便歸方丈。峯舉似師。師曰、大小德山、未曾末後句在。山問令侍者喚師去。問、汝不肯老僧那。師密啓其意。山乃休。明日陞堂、果與尋常不同。師至僧堂前、拈掌大笑曰、且喜堂頭老漢會末後句、他後天下人不柰伊何。雖然、也祇得三年活。山果二年後示滅。(卷7・Z138-232b)

【贊】師一日齋遲。自托鉢過堂時、雪峯爲典座。曰、鐘未鳴鼓未響、托鉢甚處去。師便歸方丈。峯舉似巖頭。頭曰、大小德山、未曾末後句。師聞令侍者請巖至謂曰、汝不肯老僧那。巖密啓其意。次日上堂、便與尋常不同。巖於僧堂前撫掌曰、且喜堂頭老漢會末後句。雖然、也只得三年。後三年果遷化。(Z135-917b)

【峰】咸通四年癸未。師年四十二。在德山作飯頭。一日飯遲。德山自擊鉢下法堂。師曬飯巾次見云、這老漢鐘未鳴鼓未響、拓鉢向甚麼處去。德山便歸方丈。師舉似巖頭。頭云、大小德山、不會末後句在。山問舉令侍者喚巖頭至方丈、問、爾不肯老漢那。巖頭密啓其意。山乃休。來日陞堂、果與尋常不同。巖頭到僧堂前、拈掌大笑云、且喜得堂頭老漢會末後句、佗日天下人不柰伊何。雖然、也祇得三年活。(卷

(二六) 巖頭・雪峰、德山を辞す

【祖】《巖頭和尚章》師辭德山。德山問、什摩處去。對云、暫辭和尚。德山云、子後作麼生。對云、不忘。

德山云、既然如此、因什摩不肯山僧。師對云、豈不聞道、智慧過師、方傳師教。智慧若與師齊、他後恐減師德。德山云、如是如是。應當善護持。(卷七・禪文化本 p.278)

【宋】《唐福州雪峰広福院義存伝章》咸通六年歸于芙蓉之故山。(卷一一・T50-782a)

【景】《鄂州巖頭全歳禪師章》存豁二士、同嗣德山。師與存同辭德山。德山問、什摩處去。師曰、暫辭和尚下山去。德山曰、子他後作麼生。師曰、不忘。曰、子憑何有此説。師曰、豈不聞、智慧過師、方傳師教。其或智慧齊等、他後恐減師半德。曰、如是如是。當善護持。二士禮拜而退。(卷一六・T51-326b)

【聯】《鄂州巖頭全歳禪師章》師同雪峰、欽山辭德山。山問、甚麼處去。師云、暫辭和尚下山去。山云、子他後作麼生。師云、不忘和尚也。山云、子憑何有此語。師云、不見道、智與師齊、減師半德。智過於師、方堪傳授。山云、如是如是。善自護持。(卷一一・Z136-778a~b)

【五】ナシ

【贊】《鄂州巖頭全歳禪師章》師與雪峰同辭德山。山問、甚處去。師曰、暫離和尚去。山曰、子他後作麼生。師曰、不忘和尚。曰、子憑何有此説。師曰、豈不聞、智與師齊、減師半德。智過於師、方堪傳授。曰、如是如是。善自護持。(卷一・Z135-918b)

【峰】六年乙酉。師年四十四、與巖頭同辭德山。(卷一・Z119-976a)

(二七) 三聖との問答

【祖】 ナシ

【宋】 ナシ

【景】 《鎮州三聖院然禪師章》師到德山。才展坐具、德山云、莫展炊巾。這裏無餒飯。師曰、縱有也無著處。

德山以拄杖打師。師接住、却推德山向禪牀上。德山大笑。師哭蒼天而去。(卷11・T51-295a)

【廣】 《鎮州三聖院然禪師章》師參德山。纔展坐具、德山云、闍梨、不用展炊巾。者裏無殘羹餒飯。師云、賴遇無。設有向什麼處著。德山擬議。師下參衆。(卷11・Z135-705b)

【聯】 《鎮州三聖院然禪師章》鎮州三聖慧然禪師、參德山。纔展坐具、山云、不用展炊巾。這裏無殘羹餒飯。師云、賴遇無。設有向甚麼處著。山便打。師接住棒、推山向繩牀上。山呵呵大笑。師哭云、蒼天蒼天。便出去。師到德山。時踢天泰爲首座。問師、行脚人、須具本色公驗。作麼生是上座本色公驗。師云、噯。座再問、師打一坐具去。這桶漆、前後觸忤多少賢良。座便人事。(卷10・Z136-600a)

【五】 ナシ

(二八) 頂相の問答

【祖】 師有時謂衆曰、汝等諸方、更誰敢銘邈。有摩出來。吾要識汝。聞此語者、悵懷鉗結、無敢當對。

【宋】 ナシ

【景】 ナシ

【聯】 ナシ

【五】 ナシ

(二九) 病まざる者

【祖】 師因病次問、和尚病、還有不病者無。云、有。進曰、如何是不病者。師云、阿耶阿耶。

【宋】 ナシ

【景】 師因疾、有僧問、還有不病者無。師曰、有。曰、如何是不病者。師曰、阿邪阿邪。

【聯】 師因疾、僧問、還有不病者麼。師云、有。云、如何是不病者。師云、阿耶耶、阿耶耶。

【五】 師因疾、僧問、還有不病者也無。師曰、有。曰、如何是不病者。師曰、阿哪。阿哪。